

平成21年度

調査研究助成事業報告書

全国特別支援学校知的障害教育校PTA連合会

豊かな地域生活を送るために 有効なサポートブックの作成 実践報告

福島県立あぶくま養護学校

目次

はじめに	・・・ 1
1 本校の概要	・・・ 2
2 あぶくま養護学校PTAの取り組み	・・・ 2
3 サポートブック作成の取り組み	・・・ 4
(1) 平成20年度地区別懇談会におけるサポートブック作成の取り組み	
(2) テーマ設定の理由	
(3) 調査研究事業のテーマ	
(4) 調査研究の目的	
(5) 活動計画	
4 活動の実際	
(1) サポートブックの概要について保護者へ周知	・・・ 7
(2) 第1回アンケートの実施	・・・ 8
(3) 第1回アンケートの結果	・・・ 9
(4) サポートブックに関する学習会	・・・ 12
(5) サポートブックの本の購入、貸し出し	・・・ 14
(6) サポートブックの様式	・・・ 14
(7) サポートブックの用紙とポストカードブックの配付	・・・ 16
(8) サポートブック作成会の実施	・・・ 17
(9) 第2回アンケートの実施	・・・ 19
(10) 第2回アンケートの結果	・・・ 20
5 活動の成果と今後の課題	・・・ 24
(1) 活動の成果	
(2) 今後の課題	
おわりに	・・・ 25

はじめに

福島県立あぶくま養護学校

P T A会長 鈴木 早苗

今回「サポートブック作成」の取り組みをP T Aで行うことができたことを心から感謝しております。

昨今、知的障がいにおいても、さまざまな個別指導や個別支援の充実が進められてきましたが、各個人の特性や性格等をスムーズに理解していただくアイテムとして「サポートブック」の役割は大きなものと考えておりました。

これからの福祉サービスや地域との豊かな社会生活を歩んで行くためにも、サポートブックについて、たくさんの保護者に理解と必要性を感じていただき、我が子を第三者的目線で考えてみる機会を得ることは、今後にもつながるすばらしい時間です。

これをきっかけに、学校だけでなく地域サービスの充実や行政への働きかけ（災害時等）にもつなげられればと考えております。

1 本校の概要

本校は、主に知的障がい者を教育する通学制の特別支援学校で、平成6年に小・中学部が開校し、平成8年に高等部が新設された。それ以前は、県中地域に施設併設の知的障がい養護学校が1校のみであったため、近隣にある施設等に入所することを余儀なくされていた。そのため、家庭を離れて生活していた子どもたちが多く、本校の設置は県中地域の保護者にとって、待ち望んでいたものである。現在、開校以前に県中地域にあった知的障がい養護学校は本校の分校となっている。

本校は、福島県の中心部の郡山市に位置する。児童生徒数は、小学部72名、中学部97名、高等部152名、合計321名で、学級数は78学級と福島県一規模が大きい学校である。教室不足が深刻で、PTAでも県へ要望を出していたところであったが、平成22年度に18教室が増設される予定であり、改善が図られる見込みである。児童生徒は、郡山市をはじめ、二本松市、本宮市、須賀川市、田村市、白河市、三春町、小野町、鏡石町、矢吹町、大玉村、天栄村の6市4町2村の広域から通学している。5つの通学バスルートがあり、小・中学部の児童生徒117名が通学バスで通学しているが、その中には1時間35分運行にかかる通学バスルートもある。また、保護者による送迎が85名、自立通学の高等部生徒が119名となっている。

また、児童生徒の障がいの状況は、自閉症およびその周辺の障がいを有する児童生徒が約50%を占めるようになっており、子供に接する人たちに子供のことを知ってもらうことが必要になってきている。



福島県立あぶくま養護学校



2 あぶくま養護学校PTAの取り組み

本校のPTA活動は活発で、行事の度に毎回100名以上の保護者の参加がある。PTA活動は、PTA役員を中心に4つの委員会と地域別懇談会として活動している。

(1) 総務委員会

- ①通学指導：期間を設定し、保護者が交代で通学バスに乗車している。保護者が子供達のバス乗車の様子を観察する。
- ②進路講演会：事業所等の支援員等を招聘し、進路情報について講話を聞く。
- ③作品・製品展示即売会（フェスタ展）：児童生徒の作品と作業学習時に作製した作業製品等の販売を郡山市内のジャスコフェスタ店で行っている。



作品・製品展示即売会



進路講演会

(2) 教養委員会

- ①学習旅行：バスを利用した研修旅行を実施し、保護者間の交流を図った。
- ②PTA学習会：平成21年度は、高等部農園芸班（作業班の1つ）で行っているパウンドケーキ作りを体験した。

(3) 厚生委員会

- ①奉仕作業：窓ふき、除草等の作業を実施している。
- ②花の苗植え作業：花いっぱいコンクール等で数々の賞を受賞している。
- ③PTAバザー：学校祭の時、PTA主催でバザーを実施している。



PTA学習会（高等部作業学習で作っているパウンドケーキ作り） 奉仕作業・花の苗植作業

(4) 広報委員会

- ①会報「あぶくま」の発行（年3回）



「みんなであそぼう」

年2回、PTA役員が中心となり、休日に模擬店や作って遊ぶコーナーを設け、「みんなであそぼう」を実施している。400人を超える参加者がある。

(5) 地域別懇談会

本校に通学している児童生徒の居住地を6区分に分け、保護者の中から選出した世話人を中心に活動している。卒業された子供をもつ先輩母親の話を聞くなど、地域ごとに保護者が必要としている地域の情報を共有したり、交流会、懇親会、勉強会を実施したりしている。

3 サポートブック作成の取り組み

(1) 平成20年度地域別懇談会におけるサポートブック作成の取り組み

平成20年度、地域別懇談会の一つの地域である「郡山南地区」でサポートブック作成に取り組み、それが大変好評であった。また、福祉サービスを利用する場合にサポートブックを使用することはとても有効であるという声も保護者から聞かれた。そこで、今年度（平成21年度）は、全国特別支援学校知的障害教育PTA連合会の調査研究事業を受け、サポートブック作りをPTA活動として取り組むこととした。

(2) テーマ設定の理由

① 児童生徒の事業所等の利用状況について

『児童生徒がどれだけ事業所等のサポートを利用しているか』調査した結果、アンケート回答をしてくれた213人中、114名が事業所等のサポートを利用しており、約50%以上の児童生徒が利用していることが分かった。

『利用をして困ったこと』を尋ねたところ、

- ・ 緊急時をはじめ、利用する時間がうまく合わない。
- ・ 支援者が不足している。アルバイトの方が見ており心配である。
- ・ 支援者が変更になる度に子どもについて説明をしなければならない。
- ・ 本人が苦手や不快と感じていることへの対応をしてもらえない場合がある。

などの意見があった。

この意見の中で、特に、「支援者が変更になる度に説明をしなければならない。」「本人が苦手や不快と感じていることが伝わらない。」という声が複数あり、その解決のためにもサポートブックを作成し、活用していくことは必要であるということが分かった。

② 日常生活で、親が困った場面等について

同様のアンケートで『日常生活の中で困った場面や困ったことはないか』の質問に対しては、

- ・ 初めてのところでは、車から降りなかつたり、泣いたりしてしまう。
- ・ 本やレンタルビデオ店等で大きな声をだしたり、予想もしない行動をしたりすることがある。
- ・ 病院で待ち時間が長かつたり、治療をしたりすると怒ってしまう。
- ・ 救急でかかりつけの病院ではない病院を受診したとき時、対応の人たちが困っていた。
- ・ じっとしていることができず、自分の欲しいものがあると買うまで大騒ぎしている。
- ・ 広い場所を自由に駆け回りたがる。
- ・ 床屋で髪を切るとき大暴れする。

など、それぞれ困っていることの違いはあるが、その中でも、病院の待ち時間や治療を受ける時や床屋で髪を切る時など、子供に接してくれる人にサポートブックを見せて対応してもらえると子供の理解が進むのではないかということも分かった。

③ テーマ設定の理由

そこで、保護者にサポートブックについて広く知ってもらい、保護者が子供一人一人に応じたサポートブックを作成し活用することで、子供達に接してくれる人たちが子供達を理解することで、障がいのある子供達がより豊かな地域生活を送ることができるのではないかと考え、このテーマの研究に取り組むこととした。

(3) 調査研究助成事業のテーマ

「豊かな地域生活を送るために有効なサポートブックの作成」

(4) 調査研究の目的

- ① 福祉サービス等を利用するにあたって、保護者にサポートブックについて広く知ってもらう。
- ② 誰でも簡単に作成できるサポートブックの様式や内容を検討し、サポートブックの所持率を高める。
- ③ 将来的には、災害時や病院で使用するために目的別に作成できるようにする。

(5) 活動計画

① サポートブックプロジェクトチームの立ち上げ（保護者・学校との協働作業）

サポートブックプロジェクトチーム		合計
保護者	PTA会長、PTA副会長（2名）小・中・高等部PTA役員各1名ずつ（3名）	6名
学 校	教頭、総務部長、教務副部長、教育支援部長、進路指導部長、健康教育部長	6名

* サポートブックプロジェクトチームで、話し合いをしながら研究を進めていく。

② 年間活動計画

月		活 動 内 容	備 考
5	中旬	サポートブックプロジェクトチーム立ち上げ ・活動の方向性 ・年間計画の作成	プロジェクトチーム
6	上旬	サポートブックの概要について保護者へプリント配付	保護者
		第1回アンケートの内容の話し合い	プロジェクトチーム
		第1回アンケートの実施	保護者
	中旬	アンケート結果について話し合い ・アンケート結果を受けてサポートブックの様式、作成会等について検討 ・サポートブックの学習会について検討	プロジェクトチーム
	下旬	学習会実施に向けて話し合い	プロジェクトチーム
7	上旬	サポートブック学習会	保護者
9	上旬	サポートブック作成会実施について話し合い	プロジェクトチーム
10		サポートブック作成会の実施 ・学部別の実施	保護者
11	下旬	第2回アンケートの内容について話し合い	プロジェクトチーム
12	上旬	第2回アンケートの実施	保護者
	下旬	アンケート結果の話し合い ・アンケートの結果を受け、成果や今後の課題等について話し合い	プロジェクトチーム

4 活動の実際

(1) サポートブックの概要について保護者へ周知

※配布プリントの実際

平成21年6月1日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブック作成に関する協力をお願い

向夏の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本校は、全国特別支援学校知的障害教育PTA連合会のサポートブック作成について実践研究校となりました。

サポートブックとは、「障がいのある子どもが、いつでも誰からでも支援を受けることができるように、子どもの特性や接し方について知ってもらうための情報を書いておくもの」です。

今年度、PTA活動の一環として、サポートブック作成をPTA全体で取り組んでいきたいと考えておりますので、以下の内容・趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

1 事業名 全国特別支援学校知的障害教育PTA連合会
平成21年度調査研究助成事業

2 サポートブックの具体的内容

(1) どんなとき使うの、こんな時に使ってみては・・・

①事業所やボランティアさんに預ける時に

②医者にかかる時に ③事業所体験や現場実習の時に

④通学や外出の移動の時に ⑤事故や災害時に

(2) どんなことが書かれているの

- ・名前や連絡先、障がい特性など子どもの基本的な情報
- ・子供の好きな物や苦手なものの情報
- ・接し方やかわり方、要求や拒否の仕方 等

(3) どのようにして作るの

〇お子さんに応じて、支援の目的に合わせて作成します。

〇手帳サイズ～B5サイズ程度で作成し、携帯して必要な場面で使用します。

〇目的に応じた項目でまとめるので、必要に応じて増やしていきます。

※昨年度、郡山南地区(旧B地区)地区別懇談会でサポートブック作りを行いました。

3 今後の活動

①アンケート調査 今週末にアンケートを配布いたします。ご協力お願いいたします。

②学習会 外部講師をお呼びし、1学期中に実施します。

③サポートブック作成

- ・7月：基本情報の確認
- ・9月以降：目的別にサポートブック作成

④活用に関するアンケート調査：12月に実施します。



(2) 第1回アンケートの実施

※配布プリントの実際

平成21年6月5日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブック作成事業に関するアンケート調査のお願い

向夏の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、先日お知らせしました「サポートブック作成についてのアンケート」を実施いたします。より、一人一人のニーズを把握して、活用しやすいブック作成をめざしていきます。以下の各項目について回答のご協力をお願いします。

学部	学年	組	氏名
----	----	---	----

- ◎ これまで、日中一時支援等、サービスを利用したことがありますか

はい いいえ

--

- 「はいの方」(利用した方)
どのようなサービスを使いましたか

--

- ◎ 利用して困ったことはありましたか

はい いいえ

- 「はいの方」(困ったことがある方)
どんなことに困りましたか
<例>◎支援者が変わる度に説明が必要

--

- ◎子どもの特徴の説明が難しい
○サービス利用で困った時にどのように解決しましたか
<例>◎サポートブックで説明した

--

- ◎ 日頃お子さんと行く場所で困ったことはありませんでしたか
(病院・デパート・本屋・その他< >)

はい いいえ

--

- 「はいの方」(困ったことがある方)
どのようにして解決しましたか

--

- 1 現在サポートブックを持っていますか

はい いいえ

○ 「はいの方」

・どのような場面で使いましたか

・役立っていますか **はい**

はい どのとき？どんなことで？

いいえ どのこと？改善したい点

○ 「いいえの方」

・どんなイメージですか

・利用したいと思いますか **はい** **いいえ**

理由は？

2 その他（作成に関する意見・要望等）

（3） 第1回アンケートの結果

平成21年6月実施

① 在籍数と回収数

小学部	72名	回収	51名	71%
中学部	97名	回収	61名	63%
高等部	152名	回収	87名	56%
計	321名	回収	199名	61%

② アンケート集計

Q1 サポートブックの所持率 33名（小学部12名、中学部9名、高等部14名） **約11%**

Q2 どのような場面で利用しているか

福祉サービス等	・福祉サービスを利用し、事業所に子供を預ける時 ・外出時（イベント、レクリエーション）
病院等	・病院受診（初診時）
学校	・就学前学校見学时 ・入学時の資料として ・担任が変わるとき

Q3 役立っているか？ 役立っている人は、サポートブックを所持している人の 48%

16 / 33名

Q4 役立っている理由

福祉サービス等	・初めて日中一時支援（ヘルパーさん）に預ける時 ・初めてのボランティアさんをお願いする時
病院等	・病歴や入院歴を聞かれた時 ・書類に記入の時
学校	・学校の職員に説明する時

- ・ いつでも誰からでも同じ支援を受けることができる。言葉でのコミュニケーションや表出が苦手なため、本人の変わりとなる。
- ・ 本人の特性に添った支援を受けることができる。
- ・ 何度も同じ事を説明しなくてよいし、伝え忘れもない。

Q5 役立っているか？ 役に立っていない人は、サポートブックを所持している人の 36%

12 / 33名

Q6 役立っていない理由

- ・ 持ち運びにくい。もっと小さいものに作り直す必要がある。
- ・ 同じ事業所に行っているので、今のところ利用していない。
- ・ 日々、成長して変わっていくので作り変える必要があるが、時間がなくてできない。
- ・ うまく利用できない。
- ・ 本人が困った時にどのような方法でどこに連絡するかが分かるサポートブックにしたい。

Q7 サポートブックをもっていない方のイメージ

- ・ 「見たことがないのでわからない。イメージがつかない。」「内容がわからない」等同様の意見が15名。
- ・ その他「個人で作るのは大変。荷物になるような重い冊子のイメージ」「見本のようなものがあれば作成しやすい」「作成するのが難しそう」「現場実習や病院なので利用すると便利だと思う」

Q8 所持していない人のサポートブック活用の希望者数

小学部30名、中学部39名、高等部39名 計115名

アンケートの結果、「サポートブックを所有している」が、全体で11%程度であった。サポートブックを「見たことがない」という保護者も多数いた。

サポートブックを所持し、役立っている保護者は、<いつでも誰からでも同じ支援を受けることができる。><本人の特性に添った支援に心がけてもらえ多くの支援者に一定の情報を与えられる。><同じことを何度も説明しなくて良い。><生後からのプロフィールを聞かれた時に便利である。>など、サポートブックの利用の利点を理解している。

サポートブックを所持しているが役だっていない保護者は、<大きいサポートブックのため利用しにくい。><子供が成長しているのに時間がなく書き直しができない。>という理由が多かった。

サポートブックを所持していない保護者の中には、＜サポートブックを見たことがない＞保護者もいるが、＜必要、利用したい＞と感じている保護者が115名と非常に多かった。

サポートブック作成に関しての意見としては、＜実際にサポートブックを見てみたい。＞＜基本的な枠組みがあり、その中で記入する項目のパターンがいくつかある。＞＜B5サイズくらいで携帯が簡単＞＜新たなことが書き加えられる。＞＜視覚的なもの＞＜自由に書く箇所がある＞など、今後のサポートブック作成に関して、たくさんの示唆が得られた。

＊配付プリントの実際

平成21年7月2日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長

サポートブック作成に関するアンケート集計の報告

先日は、サポートブック作成に関するアンケートのご協力ありがとうございました。

さて、アンケートの中で、「サポートブックを利用して役立った体験談」について一覧にまとめましたのでご覧ください。



＜サポートブックを利用して役立ったこと＞

- 福祉サービス等、施設に子どもを預かってもらう時に渡した。新しい施設、ヘルパーさんなど、かかわる人が初めての人でも支援方法が変わらないので大きな混乱がなかった。複数の施設を利用している場合も同じ物を提出することで、何度も説明しなくてもよいことがある。
- 施設等の支援を受ける時に、どんな生活リズムで過ごしているか、どんな事・物が好きか、苦手なことは何か、どんな方法でコミュニケーションがとれるのか、どう対応すれば本人が安心するのか等々、支援を受けたい時によりよい支援をしてもらうための支援ツールとなる。
- イベントやレクリエーション、サマースクール等の行事でボランティアの方に見て活用してもらった。
- 就学前学校見学や入学時の資料、担任が変わる時に提出した。
- 病院受診（初診時）に利用したり、緊急対応時の為に作成しています。
- 外出時にリュックの中に入れてある。自力通学の練習時に利用した。

※同じ内容の意見はまとめて表記してあります。こちらに掲載した内容以外にも、サポートブックに関して、「現在持っているが、改善したい点」、「作成してどのような場面で利用したいのか」「作成・活用に対する要望」等、多くの貴重なご意見を頂きました。ありがとうございました。

今後の作成事業に役立てたいと思います。

(4) サポートブックに関する学習会

サポートブックについて、保護者に知ってもらうために学習会を企画した。講師は、自閉症児の母親であり、サポートブックの発案者でもある丸岡玲子氏にお願いした。

※配布プリントの実際

平成21年6月23日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブック作成に関する学習会開催のお知らせ

深緑の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

先日は、サポートブックに関するアンケートのご協力ありがとうございました。

さて、サポートブック作成に向けて、下記の通り学習会を開催いたします。つきましては、ご多用中と存じますがご参加頂きますようご案内いたします。

なお、出欠につきましては別紙にて29日までに担任へ提出をお願いいたします。

記

1 日 時 平成21年7月13日(月) 9:30~11:20

2 場 所 プレイルーム

3 内 容 サポートブック作成に関する学習会

(1) 講演(9:30~10:50)

○体験談から

・なぜ、サポートブックが必要と感じたのか。

・良かったこと、たいへんだったこと

等

(2) 質疑応答(11:00~11:20)



4 講師紹介 丸岡玲子氏 <香川県在住 特定非営利活動法人ふぁみりいNOTE理事長>

* 重度の知的障害を伴う自閉症の青年、ノブの母

* 1997年HP「自閉症ノブの世界」を開設

* 2006年4月「特定非営利活動法人ふぁみりいNOTE」を設立

* 自閉症やその周辺の障害に対しての、講演やセミナーを通じた啓発活動、支援グッズの普及等に取り組んでいる。

* 「サポートブック」発案者

* 主な著書

・サポートブックの作り方・使い方 おめめどう(山洋社)

・子どもの自立と生活力 大月書店

・「光とともに・・・」第2巻あとがき 秋田書店 等



5 その他

丸岡氏は、サポートブックを実際に作成し、活用した実体験を基に、著書を出版したり、各地で講演したりと熱心に啓発活動に取り組んでおります。学習会では、実際の体験から、サポートブックの必要性、有効性、作成方法等を聞くことができますと思います。また、皆様からの疑問にも具体的にお答え頂けると思いますので、何か聞きたい点等ありましたら当日ご質問ください。

7月13日（月）サポートブックに関する学習会に

出席 ・ 欠席 します。

部 年 組 児童生徒氏名
保護者氏名

※ 6月29日まで 学級担任にご提出ください。

学習会の案内は、分校、市内の小・中学校の特別支援学級の保護者、卒業生の保護者等へも配付した。



学習会の様子

丸岡氏は、自閉症の息子の成長や生活について、苦労したことや工夫したことについて、動画を使って具体的に紹介し、ユーモアたっぷりに話をされた。さらに、サポートブック作成に至った経緯や実際に使って良かった点や悪かった点についても、体験を交えて話をされた。2時間という長時間ではあったが、時間が足りない程、飽きずに話を聞くことができ、参加者からは「大変良かった。」という声が聞かれ、大好評であった。参加者は、本校の保護者の外に、分校、市内の小・中学校特別支援学級、卒業生の保護者を含め約110名程であった。

参加者の感想

- ・ 丸岡さんの話が聞けて本当に良かった。もっと話が聞きたかった。生活する上でとても参考になった。子育ての先を行くお母さんの話はとてもためになった。パワーをもらい元気になった。
- ・ 動画が良かった。どのように暮らしているのかがよく分かった。自分の子もこんな感じになれるといいなと思う。
- ・ 困った行動について「どうしてこういうことをするのだろう??」と観察し、考えながら行っていきたい。「この子が今何に困っているのか考えよう」との言葉に、本人目線で見えていく大切さを痛感した。

- ・ サポートブックの必要性がよくわかった。話を聞いて項目別だと書きやすいことが分かった。
- ・ サポートブック作成について、自分の子供をもっとよく知るための機会だと思う。
- ・ 本人にとって一番良い状態で暮らしていけるようにサポートブックを活用していきたい。
- ・ サポートブック作りは地域別に行くと参加率が高いと思う。

* 丸岡氏の講演は、サポートブック作りの意欲を高めることにつながった。

(5) サポートブックの本の購入、貸し出し



丸岡玲子著 「サポートブックの作り方」 30冊購入し、学校の図書コーナーにて貸し出しを行った。

(6) サポートブックの様式

第1回アンケートの結果や学習会より、保護者から出された意見をもとにサポートブックの様式について、プロジェクトチームで話し合い、下記のように決定した。

- ① プロフィールがわかる。：プロフィール用の様式を作成する。
- ② 基本的な枠組みがある。：項目については子供に合わせて選択し、その下の枠にはその項目の子供の実態を記入し、さらに、その下の枠には、実態に応じた対応の仕方を記入する。
- ③ 記入する項目のパターンがいくつかある。：枠組みだけにすることによって、記入する項目のパターンを子供の実態から選択できる。
- ④ B6サイズ（ハガキサイズ）で携帯が簡単である。：100円ショップで販売しているB6サイズ（ハガキサイズ）のカードケースを使用することで、コンパクトで軽量なものである。
- ⑤ 視覚的な配慮点：子供の顔写真をはる。：子供の実態に応じ、コミュニケーション用の支援カードや子供の得意としているものの写真カードなどを入れられる。
- ⑥ 新たなことが書き加えられる。自由に書く箇所がある。：差し替え用のカードを用意する。また、何も枠組みのない（白い）カードも用意する。
- ⑦ 子供の成長に伴い内容を変えられる。：用紙を入れ替えでき、手軽に記入できる。

<記入例>

コミュニケーションの取り方

(コミュニケーション手段)
しゃべりません。
写真はわかります。
伝えたいことは、手を引く張ります。

(自発的行動力)
自分からは動きません。
混乱したら、パニックになります。
スケジュールを気にします。

(サポートのポイント)
* 話しかけより書いてみてください。
* 写真を使うと、伝わりやすいです。
* 必ず、目を合わせてから伝えて下さい。
* スケジュールは紙に書いて示してください。
* 文字は読めないで、シボロ写真を使ってください。

<プロフィール記入用紙>

写 真	なまえ 名前
	(男・女)呼び名()

生年月日 年 月 日 歳

血液型 型

連絡先 保護者氏名

TEL

<ブックのファイル、カバー>



(7) サポートブックの用紙とポストカードブックの配付

*配付プリントの実際

平成21年7月16日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブック作成用紙の配布について

盛夏の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

先日は、本校でサポートブック作成に関する学習会を開催しました。講師から、実際の子育ての話、サポートブックの作成、活用の体験談について講演がありました。

さて、本校では、今年度のPTA活動の一つとして、サポートブックの作成に取り組んでいます。学習会の資料とサポートブック作成用紙を配布いたしますのでご活用ください。

記

1 配布物について

(1) サポートブック作成用紙：11枚

- ①プロフィール用紙（1枚）：氏名・連絡先等を記入する用紙
- ②項目別用紙（6枚）：コミュニケーション、パニック時の対応、食事、身辺処理等、各項目ごとの記入用紙
- ③目的別自由記述用紙（4枚）：目的に合わせて自由に形式を決めて書く用紙
- ④学習会資料（1部）：②の書き方の概要も書いてあります。

※①～③の用紙は、ハガキサイズになっておりますので、専用サイズのファイル、ファイルケースに入れて携帯したり、穴を開けてリングで綴じたりして活用ください。

2 その他

- ・ 本校では、9月移行から12月の期間に「サポートブック作成会」を実施予定です。計画が決まりましたらご案内いたします。ご都合がございましたら参加頂きたいと思っております。
- ・ 夏休み中に、今回配布した用紙に記入を始めても結構です。学習会の資料を参考にしてください。また、学習会講師の丸岡氏著書「サポートブックの作り方・使い方」もありますので、ご覧になりたい場合は連絡ください。貸し出しいたします。
- ・ 学習会に参加された方で、感想・意見等がありましたら、連絡いただければ幸いです。
- ・ その他不明な点がありました場合も連絡ください。



連絡先：あぶくま養護学校 024-956-1910 担当 教頭 真部知子>

*分校の保護者へもサポートブックの用紙とポストカードブックを配付した。

(8) サポートブック作成会の実施

サポートブック作成を、小人数で、子供の発達の段階に合わせて行うために、小学部、中学部、高等部ごとに実施した。

小学部・分校 平成21年10月29日(木)

中学部 平成21年10月15日(木)

高等部 平成21年10月22日(木)

分校の保護者5名を含め、各回20数名の保護者の参加があった。

*配付プリントの実際

平成21年9月18日

小学部保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブック作成会開催のお知らせ

初秋の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、「サポートブックを作りたいけど、1人では作成が難しい」という皆様の声が聞かれましたので、サポートブック作成に向けて、下記のとおり作成会を開催いたします。

つきましては、ご多用中と存じますがご参加頂きますようご案内いたします。

なお、出欠につきましては下記の用紙を9月28日までに担任へ提出をお願いいたします。

記

- 1 日 時 平成21年10月29日(木) 9:30~11:30
- 2 場 所 郡山市 緑ヶ丘ふれあいセンター 会議室 ※東部ニュータウン郵便局の隣です。
住所: 〒963-0702 郡山市緑ヶ丘東3丁目1番地21 電話: 024-944-0001
- 3 内 容 サポートブック作成会
 - (1) 作り方の説明(9:30~9:50)
 - 作成する内容、書き方等を簡単に説明します。
 - (2) 作成(9:50~11:30)
 - プロフィール用紙の記入・確認 ○項目別用紙・自由記述用紙の記入
 - ・「コミュニケーション」「余暇の過ごし方」など目的別でグループに分かれて作成します。
 - ・作成のアドバイス・手伝いは、今回の推進事業の担当をしている保護者と教師で行います。裏面に手本を示したので参考にしてください。
 - (3) 準備物
 - ・サポートブック作成用紙 ・ファイル、ケース ・筆記用具

きりとり

10月8日(木) サポートブックに関する学習会に

出席 ・ 欠席 します。

小学部 年 組 児童氏名

保護者氏名

9月28日まで 学級担任にご提出ください。

※ なお、10月29日を予備日として会場を予約しています。今回ご都合がつかず欠席される方で、29日に参加が可能な場合は、その旨を下記の連絡事項にご記入ください。

連絡事項(何かありましたらご記入ください。)

<連絡先：あぶくま養護学校 024-956-1910 担当 教頭(真部) >

全員の通ごし方 (尹外)		パニックの対処法	
<p>【好きな遊び】 アランコ遊びが好きです。お昼がある時、一帯にアランコに向かっていきます。</p> <p>【困っている時の様子】 驚いたままで、ゆっくり揺れるのが好きです。誰かが近づくと、嫌がります。言葉が通じません。</p> <p>【サポートのポイント】 ●本人が驚いたら、手前からゆっくりのペースで歩いてください。 ●言葉が通じない時は、手で示してください。</p>	<p>【パニックの原因になりそうなこと】 赤ちゃんの機嫌声が好きです。にぎやかな場所が好きです。</p> <p>【パニックの様子】 いや、いやと叫びながら、走り回ります。そばにあるものを壊します。</p> <p>【サポートのポイント】 ●原因になっているものから離れさせてください。 ●楽しい時は、寄り添ってまで見て見せてください。 ●揺り籠にいたら、揺り籠に合ったように揺らしてあげてください。</p>	<p>【好きな遊び】 ボクはアランコ遊びが好きです。お昼がある時、一帯にアランコに向かっていきます。</p> <p>【困っている時の様子】 ボクはアランコに驚いたままで、ゆっくり揺れるのが好きです。誰かが近づくと、嫌がります。言葉が通じません。</p> <p>【サポートのポイント】 ●ボクが驚いたら、手前からゆっくりのペースで歩いてください。 ●言葉が通じない時は、手で示してください。 ●揺り籠にいたら、揺り籠に合ったように揺らしてあげてください。</p>	<p>【ボクがパニックになっちゃうのは】 赤ちゃんの機嫌声が好きです。にぎやかな場所が好きです。そばにあるものを壊します。にぎやかな場所が大好きです。</p> <p>【ボクがパニックの様子】 いや、いやと叫びながら、走り回ります。そばにあるものを壊します。にぎやかな場所が大好きです。</p> <p>【サポートのポイント】 ●ボクが驚いたら、手前からゆっくりのペースで歩いてください。 ●言葉が通じない時は、手で示してください。 ●揺り籠にいたら、揺り籠に合ったように揺らしてあげてください。</p>
コミュニケーションの取り方		好きな食べ物	
<p>【コミュニケーション手段】 しゃべりません。言葉はわかりません。伝えたいことは、手を引くだけです。</p> <p>【自発的行動】 自分からは話さず、話しかけられれば、話しかけられます。アランコが好きです。</p> <p>【サポートのポイント】 ●話しかけられる時は、話しかけてください。 ●言葉が通じない時は、手で示してください。 ●アランコが好きです。アランコを連れて行ってください。 ●アランコを連れて行ってください。アランコを連れて行ってください。</p>	<p>【好きな食べ物】 カレーライス・スパゲッティ・お味噌汁・アメ・チョコレート</p> <p>【こだわり】 ボクはアランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。</p> <p>【サポートのポイント】 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。</p>	<p>【コミュニケーション手段】 ボクは言葉がしゃべりません。でも言葉はわかります。聞いておいてね、伝えたいことは、手を引くだけです。</p> <p>【自発的行動】 ボクからは話さず、話しかけられれば、話しかけられます。アランコが好きです。アランコが好きです。</p> <p>【サポートのポイント】 ●話しかけられる時は、話しかけてください。 ●言葉が通じない時は、手で示してください。 ●アランコが好きです。アランコを連れて行ってください。 ●アランコが好きです。アランコを連れて行ってください。</p>	<p>【好きな食べ物】 カレーライス・スパゲッティ・お味噌汁・アメ・チョコレート</p> <p>【こだわり】 ボクはアランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。</p> <p>【サポートのポイント】 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。 ●アランコが好きです。アランコが好きです。アランコが好きです。</p>

※引用：サポートブックスターキッド（非特定営利活動法人ふぁみりNOTE）

7月実施の講演会講師：丸岡氏の「サポートブックの作り方・使い方」の参考図書を基に、役員で形式と手本を作り、用紙・カバーを全児童生徒分準備して、夏季休業前に配布し、項目・内容等に見直しを持ってもらい、今回の作成会を実施した。また、作成のアドバイスや手伝いは、サポートブックプロジェクトチームのメンバー（保護者）が行った。「プロフィール、コミュニケーションの方法、緊急時の対応等」、参加者の要望に応じて、項目ごとに内容を考えて作成した。



サポートブック作成会の様子

サポートブック作成会参加者の感想

- ・ 「同じ課題を持っている保護者同士で和やかな雰囲気に参加できたこと、役員保護者から親切にアドバイスを受けながら作成できたことに満足した」という感想が多かった。
- ・ 各項目の記入で、「我が子について、『こんなところもあった。』など見つめ直し、再確認する機会となった。」「改めて、読む人に伝えたいこと、伝わりやすい書き方を考えることができた。」などと、作成して感じた意見が出された。
- ・ 「項目に応じて分かりやすく簡潔にまとめることが大変だった。」「パニック時の対応をどう伝えたらよいか難しかった。」「成長・必要に応じて修正していきたいので、定期的に関いて欲しい。」などの感想もあり、今後の活動内容・事業の継続についての課題も明らかとなった。

(9) 第2回アンケートの実施

1年間の活動の成果を確認するために、第2回アンケートを実施した。アンケートの質問内容については、サポートブックプロジェクトチームで検討した。

*配付プリントの実際

平成21年12月14日

保護者様

あぶくま養護学校PTA会長 鈴木 早苗

サポートブックに関するアンケート調査のお願い

師走の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

10月はサポートブック作成会に多数の参加を頂きありがとうございました。さて、今年度の「サポートブック作成事業」のまとめとして、再度アンケートを実施し、さらに今後のニーズに応えていきたいと考えております。以下の各項目について回答のご協力をお願いします。

学部 学年 組 氏名

該当する項目に○を付けてください。枠内には質問内容に沿って可能な範囲で記述してください。

1 サポートブックを必要だと感じていますか **はい** **いいえ**

○ 1で「はいの方」(必要と感じる方)
2 作成しましたか
 (昨年までに作成していた方含む ※持っている) **はい** **いいえ**

○ 2で「はいの方」(作成した方)
3 役立ちましたか **はい** **いいえ**

○ 3で「はいの方」(役立った方)
4 どのような場面で役立ちましたか

※3で「いいえの方」で何か理由がありましたらご記入下さい。

○ 2で「いいえの方」(作成していない方)
5 なぜ作成できません(しません)でしたか

6 サポートブック作成事業について
 今後も学習会・作成会を実施して欲しいですか **はい** **いいえ**

9 その他(サポートブック作成事業に対する意見、今後の要望、その他何でもお気づきになった点を自由に記述してください。)

(10) 第2回アンケートの結果

I 在籍数と回収率

12月～1月実施

小学部	72名	回収	60名	83%
中学部	97名	回収	67名	69%
高等部	152名	回収	88名	58%
計	321名	回収	215名	67%

6月実施

小学部	72名	回収	51名	71%
中学部	97名	回収	61名	63%
高等部	152名	回収	87名	56%
	321名	回収	199名	61%

12月の終業式までアンケートの回収であったが、学校で新型インフルエンザが流行し、学部、学級閉鎖が続いたため、1月に再度提出していない保護者にアンケート用紙を配付し、回収をした。

II アンケート集計

Q1 サポートブックを必要だと感じていますか？

回答	小学部	学部割合	中学部	学部割合	高等部	学部割合	集計	全体割合
はい	41名	68%	49名	73%	58名	66%	146名	68%
いいえ	13名	22%	16名	25%	26名	29%	55名	26%
分からない	2名	3%	1名	1%	4名	4%	7名	3%
無回答	4名	7%	1名	1%	2名	1%	7名	3%

6月アンケート「サポートブックを利用したいと思いますか・(はい)」の回答集計

回答	小学部	30名	50%	中学部	39名	44%	高等部	46名	46%
----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

サポートブックが必要と感じている保護者は、6月のアンケートより33名増加した。回答をしてくれた方の半数以上の68%であった。

Q2 作成しましたか(昨年までに作成していた方含む。※持っている。)

回答	小学部	学部割合	中学部	学部割合	高等部	学部割合	集計	全体割合
はい	17名	24%	22名	23%	20名	13%	58名	19%
いいえ	29名		32名		45名		105名	
無回答	14名		13名		19名		46名	

6月アンケート「現在サポートブックを持っていますか」の回答集計

回答	小学部	学部割合	中学部	学部割合	高等部	学部割合	集計	全体割合
はい	12名	16%	9名	9%	14名	9%	35名	11%
いいえ	38名		51名		73名		162名	

サポートブックの作成については、小学部は6月の16%から24%へ、中学部は9%から23%へ、高等部は9%から13%へ、全体としては11%から19%へと、増加の幅は小さいが、どの学部共に確実に伸びが見られた。

Q3 役立ちましたか？

6月アンケート「役立ちましたか」の回答集計

回答	小学部	中学部	高等部	集計
はい	8名	9名	13名	30名
いいえ	7名	6名	7名	20名

回答	小学部	中学部	高等部	集計
はい	6名	4名	6名	16名
いいえ	4名	5名	3名	12名

※「いいえ」はまだ利用していないという意見を含む。

役にたったと回答した方は、16名から30名に増加した。

Q4 「はい」の方(作成した方)どのような場面で役にたちましたか？

- ・ 初めてサポートセンターを利用する時 5
- ・ 日中一時支援 8
- ・ 移動支援 2
- ・ ショートステイ

- ・ ヘルパーを利用する時 3 (偏食を理解してもらうため)
- ・ 初めての支援スタッフへ 3
- ・ 夏休みの事業所体験時
- ・ 学童保育における初めての宿泊時
- ・ 祖母に預ける時
- ・ 病院を初めて受診する時 3
- ・ かかりつけの病院
- ・ 就学時の資料として生育歴を作成し、学校へ提出した。
- ・ 高等部の教育相談時
- ・ 作業所見学の時 2
- ・ 美容院 1
- ・ 知らない人にもわかりやすい。
- ・ 利用する機会がない。 1 4
- ・ 子供を客観的に観ることができた

Q 5 2で「いいえの方」(作成してない方)なぜ作成できません(しません)でしたか?

※1名のみ記述については、数字を省略する。

作成途中 4

- ・ 今のところ使うところがない。 2 5 (大きくなったら作成したい3、利用できる事業所が少ない、いつも同じ事業所を利用している2)
- ・ どのように書いたらいいのかわからない。 2 7
- ・ 作成会に参加できなかった。 1 7 (小さい子がいるため、体調が悪い2)
- ・ 作成時間がない。 2 1
- ・ なるべく本人、親が言葉で伝えられる様、コミュニケーションを取れる状態を作りたい。 4
- ・ 個人情報さらけ出し、悪用されるのではないかと心配。
- ・ サポートブックは必要ない。 6 (話ができるため)
- ・ 資料をまとめて配付してほしい。

Q 6 サポートブック作成事業について

今後も学習会・作成会を実施してほしいですか?

回 答	小学部	中学部	高等部	集 計
は い	3 9名	4 7名	3 7名	1 2 3名
いいえ	8名	5名	2 4名	3 7名
分からない	4名	3名	1名	8名

アンケートに回答してくれた保護者のうち、73%は、学習会、作成会の実施を希望している。

Q7 サポートブック作成事業に対する意見、今後の要望等

学習会・作成会の感想や要望

- ・サポートブックの学習会や作成会に参加してとても勉強になった。3
- ・友達に聞いて「サポートブック」を知り作成しようと思った。
- ・サポートブックが広く浸透していけば、いろいろな場面で使用する事ができる。2
- ・サポートブック作成事業は、とても良い事業だと感じている。サポートブックは、我が子を理解してもらい、ニーズに合う支援をしてもらうためには必要。
- ・必要な場面にならないと「あれば良かった」と思わないと思う。

学習会、作成会の開催について

- ・来年度も開催してほしい。3
- ・参観日の午後に設定してほしい。3
- ・日程など、早めに知らせしてほしい。
- ・何回かに分けて作成会を開催し、都合がつく日に参加できるようにしてほしい。
- ・利用の仕方と体験等の学習会も必要なのかと思う。
- ・学習会には参加できないが、開催した時は資料をいただきたい。
- ・土、日の開催を希望。
- ・サポートブックを使用するケースはなかったが、子供をよく知ってもらうためにも続けてほしい。

使用について

- ・子供が支援を受ける際には無くってはならないものとする。
- ・病院の診察の時は口頭で伝えているが、言い訳をしている様な感じがする。しかし、将来を考えた時などより多くの方に理解してほしいので、自立のためにサポートブックは必要。
- ・サポートブック作成は持っているので必要としないが、まだ、持っていない方には作ってほしい。
- ・学校では、進級する度、担任が替わる度に一から始めなければという相互のストレスが少なくなり、個々の子供達がより安定した環境を作りやすくなると思う。2
- ・学校生活で担任が変わるたびにサポートブックを渡すなどの方法が定着すると、お互い早い時期に良い関係ができてくるのではと思う。
- ・郡山市の近隣に住んでいるので、情報を収集したい。
- ・親として学校生活の中での先生からみた子供のサポートの考え方などを知るためにも、先生が作成したサポートブックを見てみたい。
- ・サービスを利用する機会や予定がなく、困ることもなく、役に立つのか実感ができない。2

サポートブック作成について

- ・作成の参考例を見てみたい。
- ・見本のサポートブックが参考になったので、作ったサポートブックを見たい。
- ・サポートブックにのせた方が良い項目の一覧表のようなものが欲しい。
- ・教師から見て、知りたい点を教えてほしい。

- ・活用事例など実際使用しての意見など聞きたい。
- ・学校側でも進級や担任が替わる時に、その中に保護者との聞き取り調査を含め、その内容でサポートブックに載せることができれば、二重手間にならないと思う。学校と協力して作成したい。
- ・学校に入った時点ですぐに作成する。年齢とともに変化したところは書きかえて差し替えておくとよいと思う。
- ・サポートブックは必要だと思うが、自分なりに現在の困り事、こういう時はこうしてほしいなど、その他の事柄の書き方は自由でよいと思う。書き方の資料を見ながら、自分なりにサポートブックを作成したが、今後高等部の現場実習等もあるので、増やしていきたい。
- ・県で発行しているサポートブックを使用した。できあがるまでに時間と労力がかかるのでじっくり取り組む時間がないと一から作るのが大変で、手を付けられなかった。

5 活動の成果と今後の課題

下記の点をサポートブックプロジェクトチームで話し合い、成果と課題として挙げる。

(1) 活動の成果

- ・ 保護者がサポートブックの必要性を感じ、意識を高めることができたことはこの研究の一番の成果である。
- ・ 「学習会に参加して勉強になった。」「作成会を来年度も開催してほしい。」という声が多く聞かれ、来年度に活動につながった。
- ・ 保護者が集まってみんなで作成することで、親が子供のことを見つめ直し、子供の実態を把握することができた。
- ・ 客観的に子供を観る大切さを保護者に少しでも理解してもらえた。

(2) 今後の課題

- ・ 今年度だけでなく、来年度も保護者の意識を高めるためにサポートブックの学習会、作成会を実施する必要がある。
- ・ 学校に在籍している間は、子供達はある程度守られた生活をしているため、サポートブックの必要性をあまり感じないで生活している傾向がある。しかし、卒業後、社会に出てから障がいに対する理解がされず、困難なことや障壁にぶつかることが多い。その解決のためにも、サポートブックが必ず必要になってくる時があることを理解してもらおう。地域生活を豊かにしていくためにサポートブックが有効であることを保護者や教員に啓発していく。
- ・ 「コミュニケーションを自分からとれる子供にとってサポートブックは必要がない」という意見もあったが、豊かな地域生活を送るためには、いろいろな場面において子供の特性や個性を知ってもらう必要がある。本校でもキャリア教育が推進され、コミュニケーションがとれる生徒でも在学中の進路指導において、サポートブックの必要性を感じることがある。もっと、サポートブックについて、社会全体に周知していく必要がある。
- ・ 目的別のサポートブックの作成まで至らなかったなので、来年度は、それぞれの目的別でどんな項目が必要なのかを調査研究していく。

おわりに

5月の中旬にサポートブックプロジェクトチームを立ち上げ、12月までの間に保護者にサポートブックを広めていくためには、どのようにしたらよいか、プロジェクトチームで話し合いを重ね、試行錯誤しながら取り組んできた。

その結果、サポートブックの所持率の大幅アップには至らなかったが、必要性を感じるという人が増加し、保護者の意識を高めることができた。また、保護者が自分の子供を客観的に観ることの大切さも作成会をとおして感じてもらえた。作成会で保護者が集まり、自分の子供のことや他の子供の障がいについて話し合い、考えることができたことは、保護者間の連帯感にもつながった。

PTAとしてこのような事業に取り組むことは初めてであったが、学校の教員と連携して、1つの事業を達成し、乗り切ったことも大きな成果だと感じている。

来年度もPTAとしてサポートブック作り学習会や作成会を計画し、継続して取り組むことになった。

特別支援学校における 放課後活動の実践報告

千葉県立我孫子特別支援学校PTA



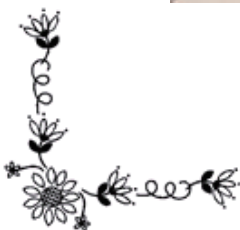
1. はじめに...

事の始まりは「どうして特別支援学校って部活動がないんだろう？」というお母さんたちの素朴な疑問からでした。授業の中に『余暇』という単元はあるものの、本校の中学部においては約2週間に1回ペースの実施であり、内容も子どもたちそれぞれに合うものであるかは疑問です。高等部になると一部生徒（自力通学ができる・保護者の迎えがある）には週1回のクラブ活動的な時間が設けられていますが、すべての児童生徒に対して公平なものとはいえません。

一方、定型発達の子どもの通う学校（以下一般学校）には小学4年生から部活動が存在します。学校での規定の授業以外にスポーツや芸術に触れる時間を多く持つことで、個人の将来が豊かになる趣味を獲得できる機会になっているといえるのではないのでしょうか。

特別支援学校に通う子どもたちは帰宅後、どのように過ごすことが多いのでしょうか？もともとこだわりがあったり、興味の幅がきわめて限局されていたりするという特性を持つことが多い子どもたちです。自分自身で趣味の幅を広げていくことは困難であり、家の中や放課後支援施設で過ごすことが多くなります。「もし、学校で部活動ができたなら、子どもたちの放課後が豊かになるのではないだろうか？大人になっても続けられる趣味に繋がらないだろうか？」そのような思いからスタートし、試行錯誤しながらの1年間でした。

参加の保護者、学校の先生方、ボランティアの学生さんと大学の先生、本校スーパーバイザーの先生など多くの皆さんに支えられて、活動を継続することができました。改めて感謝申し上げますとともに今後の安定した活動の継続と発展に繋がることを願っています。



平成22年1月
千葉県立我孫子特別支援学校
PTA会長 関口 えみ子



目 次

1. はじめに	1
2. 事業目的	3
(1) 事業目的	
(2) 本校における放課後活動の現状	
(3) 期待される結果	
3. 事業計画	4
(1) 事業実施計画	
(2) ダンスクラブ実施予定日	
(3) 活動の主な経過	
4. 結果と考察	5
5. 課題	6
6. 展望	7
7. 最後に	7
夏休み活動風景	8
ある日の日誌&写真	9
巻末	
資料 1 ダンスクラブ事前調査アンケート	10
資料 2 ダンスクラブ事前調査アンケート集計結果	11
資料 3 クラブ活動実施計画書	12
資料 4 ダンスクラブ実施予定日	13
資料 5 ダンスクラブ体験・見学会	14
資料 6 ダンスクラブ体験・見学会タイムスケジュール	13
資料 7 見守り当番表6・7月／11・12月	15
資料 8 ダンスクラブケースファイル	17
資料 9 「ダンスクラブ」参加のみなさまへ	18
資料 10 夏休みの活動のお知らせ	19
資料 11 ダンスクラブ評価アンケート	20
資料 12 ダンスクラブ評価アンケート集計結果	23

2. 事業目的

(1) 事業目的

特別支援学校の児童生徒にとっては生活そのものを支援するということが教育の大切な視点であり、将来にわたって継続できる余暇を持つこともその一つである。しかしながら放課後にクラブ活動を実施している学校は少なく、ほとんどの子どもは終業後自宅か放課後支援施設で時間を過ごしている。本研究は「放課後クラブ活動の実施は子どもの余暇支援として有意義である」との仮説のもとに実施し、その結果を広めていくことで特別支援学校における余暇活動支援に貢献できものとする。

(2) 本校における放課後活動の現状

<高等部の日課表>

	月	火	水	木	金
1	日常生活の指導・自立活動				
2	国語（重複学級では自立活動）	学級活動	数学（重複学級では自立活動）		
3	作業学習	総合学習	作業学習		
4	日常生活の指導・昼休み				
5	選択教科	音楽・美術・体育	特別活動		
6	日常生活の指導				
	課外活動		課外活動		

「課外活動」の月曜日枠がいわゆるクラブ活動（体育系のみ）にあたる。

時間は14：15～14：55。（15：20下校）

「特別支援学校高等部スポーツ大会」に向けた取り組みとして行われており、大会参加希望者は次の4種目から選択する。①Tスロー ②キックベース ③サッカー ④ポッチャ

火曜日・木曜日については学年対応でマラソン、体操、ストレッチ、その他必要に応じた活動をしている。

スクールバスの関係から、参加には自力通学生か、もしくは保護者の迎えが可能な者となっている。

また、ダンスクラブ参加者へのアンケートの集計結果から放課後の過ごし方を垣間見ることができる。部活動の経験があるのは高等部から入学の2名のみ。ほとんどの子どもたちは自宅で過ごすことが多い。（資料1，2参照）

(3) 期待される結果

本事業は、「放課後クラブ活動の実施は子どもの余暇支援として有意義である」という仮説を元にしており、参加者への事後アンケートでは「有意義である」との回答が多く（資料1 2参照）、仮説は実証されたといえる。しかし、実際の1年間の活動を振り返ってみれば、走りながら何とか活動を形作ってきたとしか言いようがないのも事実である。

来年度以降はPTAの中に組織化することで安定した活動を展開していくこと、また今後はダンス以外にも内容を広げていけるようにすることが、真の意味での余暇支援に繋がっていくと考える。

3. 事業計画

(1) 事業実施計画 …… 資料3 参照

活動の内容は子どもたちになじみのある「ダンス」とする。多様な障がいや学年に対応するためにグループ別に活動内容を変えていく。

ダンスの指導者を外部から要請するにあたり、本校元校長が我孫子市内の川村学園女子大学の准教授であることから窓口になっていただき、ダンスサークルの学生2名に依頼することができた。

(2) ダンスクラブ実施予定日 …… 資料4 参照

週1回の活動。

(3) 活動の主な経過

4月	PTA 全体へ活動のお知らせ	資料5 準備の都合上 GW 明けの活動開始には間に合わず
	ボランティア学生との打ち合わせ	当初高等部の課外活動のない曜日(水・金)に設定する予定だったが、学生の授業の都合上、木曜日の活動となる。参加学生は6名。選曲、振り付けの全てを任せる。
	学校との打ち合わせ	* 高等部の課外活動と重複しない活動場所の確保をお願いする。学校内での活動場所の確保が困難とのことながらも、基本的に体育館の使用を認めていただく。* 保護者の駐車場所の確保。 * 1名顧問をつけていただけるよう依頼するも今年度は難しく、連絡調整をお願いする。運営は PTA 役員及び参加保護者が行う。
5月	体験・見学会2回の実施	* 当日のタイムスケジュールについては資料6参照 * 子どもたちがすでに学校で習っているダンスの他、学生考案のオリジナルダンスを1曲という構成で実施。 * 子どもたちがダンス体験の間、保護者に対しては詳細の説明会を実施する。
6月	参加者決定 参加人数は13名 (小4～高3) ★ダンスクラブ正式にスタート	* 会員名簿、見守り当番表の作成(資料7) * 備品の購入準備 * ケースファイルの作成(資料8) * 子どもたちの体育館への移動は担任の先生が協力する。また、スクールバス使用の有無について保護者の連絡の不備があり、参加保護者へ連絡徹底を図る。(資料9)
8月	夏休み中の活動 (1日のみ)	資料10 本校のスーパーバイザーでもある田熊先生と、川村学園女子大学の猪瀬准教授をお招きして、実際の活動場面を見ていただき、アドバイスをいただく。また、子どもたちの動き方の特徴について教えていただく。子ども、先生、学生、保護者の皆で昼食会も行う。
10月	後期の参加者の募集(前期とメンバーが替わるが13名)	学生の授業の都合で活動日が木曜日から水曜日に変更になる。高等部の課外活動と重ならなくなり、活動場所が安定する。
12月	発表会	* 発表に向け、学生と子ども達のお揃いのTシャツを作成する。 * PTA 主催の「親子レク」にて発表(11月に学校行事の「あよう祭」にて発表の機会を相談したが、スケジュール上、組み込むことが困難だったため、12月となった。)

4. 結果と考察

学校行事やクラス活動の際に子どもたちが楽しそうに踊り、リズムに乗っている姿を目にすることが多く、「ダンスだったらなじみもあるし、子どもたちが楽しくできるに違いない…EXILEとまではいかなくてもきっと今時のかっこいいダンスになるだろう…。フォーメーションとかもできるかも…」との大きな期待は、始まって間もなく崩れ去ることになる。活動場所に入って来られない、最後までいられない、みんなと一緒に踊れない。高等部の機能が高いと思われる生徒でさえ、自分のボディイメージの持ち方はやはり定型発達の人とは異なるらしく、ボランティアの学生さんの動きの模倣とはほど遠い。そう、ここにいる子どもたちは体もコミュニケーションも思うようにいかない子どもたちばかりなのだ。たちまち目標は方向転換された。「完成度ではない。参加することに意義がある」と。

参加者は小学部4年生～高等部3年生までと幅広い。身体・知的重複の子もいれば自由に動きすぎる子もいる。できるだけ細かい設定をしたかったが、参加者が13人と少ないこと、メイン指導のボランティア学生さんが2名ということから、2グループの編成での活動となった。

毎回の主なスケジュールは以下の通り。約45分の活動となる。小学部にはちょうど良い活動時間であるが、体力の有り余っている中・高等部には短い時間設定である。しかし自力下校をする生徒の下校手段の都合上（電車が30分に1本しかない、バスの時間との接続が悪いなど公共の乗り物のアクセスが悪い）、それ以上に延長することは不可能。

<活動のながれ>

1. 準備体操・・・学校で児童生徒が習っている曲と動きなので、全員ができる。
2. みんなでダンス・・・全員で『ヤッターマン』の曲に合わせてダンス。学生による振り付け。
3. グループ別練習・・・小学部を中心に『あんばんまん』
中・高等部を中心に『Won't be long』
いずれも学生による振り付け。
4. 休憩・・・水分補給。時にはボランティアの学生さんのダンスを披露してもらうこともあり。
5. 発表・・・それぞれのグループごとに舞台上でその日の成果を発表。みんなに見てもらうことに慣れること、達成感を持ってもらうために毎回実施。
6. 終わりのダンス・・・学校で習っている曲と動きなので全員ができる。

■宿泊学習や修学旅行など学校行事と重なり、参加者が少ない場合はグループ別活動をせずに小学部年齢に合わせた活動一本にすることもあったが、別のグループの活動も日頃からお互いに意識していたようで、子どもたちが混乱することはなかった。

■当初活動になじめなかった子どもも、毎週固定した活動を続けていくうちにダンスクラブを含めた一週間の生活リズムが出来上がってきたのか、参加することに抵抗が少なくなってきた。と同時にダンスに参加できるようになっていった。

■ボランティアの学生も、ダンスを教えることはできても障がいを持つ子どもたちと接することは初めてだったので、とまどうことも多かったようだが、回を重ねるごとに接し方も慣れていき、見て覚えることが得意な彼らの特徴をうまくつかんでくれるようになった。また子どもたちも学生との関わりに慣れて、小学部の児童も保護者抜きで楽しむようになっていった。活動を通じ、学部を越えた生徒同士の交流も見受けられるようになった。

■タイムエイドの導入やホワイトボードを使ってのスケジュールの提示をするようになってからは、子どもだけでなく、大人にとっても時間の管理がうまくできるようになった。また、大きな鏡を使ってレッスンができるようになってからは小学部の子が自分の踊る姿を鏡に映してみるような、かわいらしい様子がみられ、うれしい変化が出てきた。

■子どもたちを体育館まで連れてきてくれる先生方の中には、「手に物を持たせると動きがスムーズになるよ」「歌詞と動きに関連性があると覚えやすいよ」などと、さりげなくアドバイスしてくださる方もいて、改めて活動をきちんと継続していくことの大切さを感じた。



早速フープを持ってみました。



5. 課題

■思いつきから始まった放課後クラブ活動だったので、初年度は本当に走りながら手を変え、品を変え、やってみては失敗し…を繰り返しながらの活動となった。何事も初めから作り上げていくというには時間と手間がかかるものである。当番や学校への迎え、兄弟の参加不可など参加条件が厳しいものになってしまい、保護者には多大なる協力をいただいた。みんな「子どもたちが楽しんでいる」ことだけをやりがいにしていたと思う。

毎回の迎えについては、参加保護者の時間的な負担や、参加したくても迎えがハードルとなり参加をあきらめるご家庭もあることから、課題として大きい。

■1年間試行錯誤しながらやってみた今、やはり今後の運営をPTAの組織の中に入れていく必要があると感じた。なぜならこの活動を継続的、安定的かつ発展的に進めていきたいし、十分それに値する活動だと感じたからだ。そのためには、組織の中に位置づけることは不可欠である。そうすることで学校や先生方の協力も得やすくなる。子どもたちの特徴や支援の方法など、より専門的な知識で保護者と学生、子どもたちをご指導願いたい。顧問の設置についてもやはり必要性を感じたので、引き続き学校と相談していきたいと思う。

6. 展望

放課後クラブ活動が始まったことは、とりあえずの初めの一步であり、「期待される結果」にも述べているように、今後の展望としてはダンス以外にも内容を広げて、活動の幅を大きくしていきたいと考えている。

そのためには、現在のように参加保護者が活動の多くの部分を担うというやり方では限界があると感じるので、今後は先生方にももっと放課後クラブ活動に関わっていただけるように、学校には先生方の参加を推進できるような体制作りを検討してほしい。

特別支援学校の放課後クラブ活動は一般学校のそれと違い、大会に出場したり、スキルを向上させることが大きな目的ではない。放課後活動のバリエーションを広げること、いろいろな人に関わってもらうこと、それぞれの目標のもとで達成感を持てる毎日を過ごせること、将来にわたって楽しめる余暇につなげられるようになること等等。

あわよくば他人様の前で見せられるレベルになったなら、地域の人たちに障がいを持つ子どもたちを知ってもらえるひとつの手だてになるかもしれない。放課後クラブ活動が地域のノーマライゼーションに一役買う日をひそかに期待している。

7. 最後に...

卒業後の長い人生の中で、働くことと生活することは両輪であり、生活の中の楽しみに余暇は大きく関わってくる。千葉県においても「第4次千葉県障害者福祉計画」の中に余暇支援が位置づけられている。しかしながら、大人になってから、「働くための楽しみとして趣味を持ちなさい」といきなり言われても器質的ハンディキャップを持つ彼ら、彼女らが自分自身の力で楽しみを見出していくことは困難な場合が多い。イメージネーションすることが苦手な彼らにとっては「経験すること」＝「学ぶこと」であるとするれば、学齢期に様々な経験をすることが大切だといえるのではないか。そのためにも特別支援教育は学校の中のみで完結するのではなく、本人を中心として家庭、教師、コーディネーター、福祉、医療、地域など多くの方々と関わり、将来を見据えたトータルライフの考え方の中にあるべきと思う。

一方、保護者としても何もかも学校任せにするのではなく、積極的に子どもたちに関わっていく姿勢が大切だとこの一年を通して感じた。何より、多くの子ども達の成長を近くで見ることができたのは、とても嬉しいことであり大きな収穫となった。

今回の報告書の中で細かな資料まですべて添付したのは、全国の特別支援学校に放課後クラブ活動が広がってほしいと考えたからである。どんな活動も初めの一步を組織作るまでには相応の苦労があるが、私たちも毎週の活動を展開しながら、組織作りを描いていくことが一番大変だった。今回の年間活動報告で、次に続く人たちの初めの一步が少しでも楽になるようにと願っている。

今回このような活動の機会を与えてくださいました全知P連の皆様、川村学園女子大学の皆様、そしてこの一年大変お世話になりました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

夏休みの活動風景

ダンス練習



『♪Won't be long』は難しいけれどカッコイイ！ 踊れるようになりたくて、頑張っています。

カラフルなポンポンはママ達の手作り。必需品？なので、たくさんあります。



*保護者・学生の学習会 ～田熊立先生による講義～ *

学生さんはとても熱心にペンを走らせていました。



保護者にとっても目からウロコの内容でした。



練習風景 秋



*** Let's Dancing together ***



保護者の日誌より

- 月○日 「♪Won't be long」グループ... 振り付けが難しいのかなあ。
「♪あんぱんマン」グループへと移行する子どもたちがいて、結局
「♪あんぱんマン」グループの人数多し...。
でも「♪Won't be long」も気になる様子で。少しずつ、両方覚えよう！
- 月○日 45分間の活動がスムーズになってきた。子どもたちは気が散っていても音楽が流れ出すと集まってくるようになった。
- 月○日 「♪ヤッターマン」はすごい！子どもたちもノリノリで練習している。Nちゃん、お母さんから離れて学生さんと一緒に活動する。すごいよ。S君、2週間のブランクのせいかな？後半気力が尽き途中でお疲れ様。また来週！
- 月○日 12月... お揃いのTシャツ完成！！発表の日が近づいてきた。子ども達も学生さんも、お母さん達も、少しドキドキ。みんな、頑張ろうね！

学生の日誌より

- 月○日 新しい動きを取り入れたが、難しいようだ。一部の子ども達は完璧主義らしいので、どのような動きが取り組みやすいのか...。う〜ん悩むなあ。
- 月○日 小学部は2週間ぶりだったが、フリが入っていて驚いた。Hちゃん、手を取ってあげると少しだけ輪に入ることができた。もっと絡もう!!
- 月○日 みんな上手になってきて感動した。思えば私達が考えたフリなんだなあ。
- 月○日 発表会。みんな見事に、とても生き生きとした表情で踊っていた。すごく嬉しい。また子どもたちの成長に大興奮の保護者の方々を見て、こちらも嬉しくなった。このままいけば、前に見本がいなくても自分達だけで踊れる日も近いだろう。

発表会



♪ヤッターマン
♪アンパンマン
♪Won't be long
♪アララの呪文
4曲踊り抜きました!!

お揃いのTシャツは学生
デザインのイラスト入り。



<資料1>

ダンスクラブ事前調査アンケート

このアンケートは全知P連の調査研究活動の報告のためのものです。その他の目的には一切使用いたしません。質問項目に対して○をつけていただくか記述にて回答をお願いいたします。

締め切り 7月17日

提出先 担任まで

★ お子さんのことについておたずねします

① _____ 学部 _____ 年 ② 性別： 男 女

③ 特別支援学校にはいつから在籍していますか？ _____

④ 特別支援学校入学前の在籍は 地域の普通学級 地域の特別支援学級
その他 _____

⑤④に回答された方におたずねします。地域の学校在籍中、学校の放課後活動に参加していたことはありますか？ はい いいえ

⑥ はい と回答された方におたずねします。期間と活動内容をご記入ください。
_____ 年生～ _____ 年生まで _____ クラブ

★ 現在の放課後の過ごし方についておたずねします（複数回答可）

① 自宅で過ごす 主な過ごし方 _____

② 事業所で過ごす

③ 学童保育で過ごす

④ 習い事をしている

⑤ その他 _____

★ ダンスクラブへの参加は誰が決めましたか？

本人 保護者 その他 _____

<資料2>

ダンスクラブ 事前調査アンケート 集計結果

配布数：13（クラブに参加の小学部4年～高等部3年）

回収数：10 回収率：77%

特別支援学校の在籍期間	小学部1年から 中学部1年から 高等部1年から	4 4 2	
特別支援学校入学前の在籍	地域の特別支援学級	6	
学校内の放課後活動の経験	ある ない	2 4	★「ある」は高等部から在籍の者 柔道部（中1～3） 卓球部（中1～3）
放課後の過ごし方 （複数回答あり）	自宅で過ごす 事業所で過ごす 学童保育で過ごす 習い事をしている その他	9 3 0 2 0	★ 自宅での主な過ごし方 家族での外出 散歩 ゲーム 3 TV・読書 PCで音楽を聴く CDで音楽を聴く 宿題 お手伝い おやつを食べている
ダンスクラブの参加を決めたのは	本人 保護者	6 4	

<資料3>

放課後クラブ活動実施計画書

項目	内 容
目的	放課後活動の実施により、余暇の充実を図る
対象	小学部4年生からの児童。 中学部・高等部の生徒。
活動内容	週1回のダンスクラブ。 子どものタイプによりグループ分けをし、適当な課題が提供できるようにする。また、発表の場を設けるようにする。
実施日／時間	前期・・毎週 木曜日 後期・・毎週 水曜日 午後2時45分～3時45分まで。 ※迎えの保護者の方は <u>3時30分まで</u> にお越しください。
集合場所	図書室・・2:45 担任の先生に誘導してもらいます。(保護者は直接図書室へ)
活動場所	3:15 高等部の一部生徒は直接活動場所へ。(誘導は教員の協力を仰ぐ) 本校 体育館・視聴覚室など(前期に関しては場所の固定ができません)
定員	原則として特に設けない。
申込方法	※6月より正式実施し、6月及び年度末に評価のアンケートを実施する。 見学・体験会終了後、希望者は申込書を提出。但し、年度途中(後期)の申し込みも可能とする。
登録期間	登録の日からその年度の末日(3月31日)
指導者	川村学園女子大学 児童教育学科の学生。及び大学院心理学専攻の院生。
費用	①PTA会計より支出する。(今年度 50,000円を予算化) 内訳 { 講師交通費 4,000円/月×10ヶ月) 保険代、通信、備品、その他 10,000円 ②参加者の負担 衣装など適宜必要なものに関しては各自自己負担とする
出欠確認	児童生徒の参加者名簿により確認する。(名簿等は学校に保管)
参加方法	参加児童を2～3グループに分け、それぞれの課題を設定する。
下校方法	保護者との下校。事業所及びヘルパー同伴での下校。 但し、自力下校の生徒に関しては、保護者の判断のもとに自力もしくは保護者の送迎にて下校する。(通常の実団下校の実施はない。)
下校時間	自力下校の生徒について 新木駅◆上り電車 16:14 ◆下り電車 16:28 この時間に合わせ、着替え、下校を行います。
保護者のサポート・当番について	※子どもたちの安全を見守る当番(交代制)は、参加児童・生徒の保護者全員の義務となる。 今年度は初年となるために、特別な配慮はできない。 ※参加人数によるが、当番保護者の人数は1回5名/月1回を予定。(常にお子さんと参加する保護者もこの数に含む。) ※仕事の内容 ①用具の準備(CD、CDプレーヤー、その他) ②控え室からの生徒の誘導 ③参加者名簿のチェック ④講師の飲み物用意 ⑤日誌の記入 ⑥会場の片づけ(特に気付いた場合)と忘れ物点検
おやつ	なし 終了後の水分は保護者が各自持参。
学校	児童生徒の移動、活動場所調整、駐車場誘導、文書作成の協力、機材の購入など。 その他保護者からの相談に対応。
その他	今年度の全知P連からの助成金で、必要な備品を用意する。 それらの備品を保管するスペースを確保する。

<資料4>

ダンスクラブ実施予定日

<前期> 毎/木曜日		<後期> 毎/水曜日	
5月		10月	
21	体験・見学日	7	体験・見学日
28	体験・見学日	14	体験・見学日
6月		21	
4		28	
11		11月	
18	小4,5宿泊	4	
25	中1宿泊	11	
7月		18	
2	中3、高2宿泊	25	
9	中2、高1宿泊	12月	
16	給食終了 学年学級懇談会(高)	2	中学部駅伝大会
9月		9	中学部駅伝大会予備日
3		16	インフルエンザによる学校閉鎖のためお休み
10		1月	
17	インフルエンザによる学校閉鎖の為お休み	13	
24	学生の都合により水曜日に変更のためお休み	20	
		27	
		2月	
		3	
		10	特別日課13:45下校のためお休み
		17	
		24	
		3月	
		3	
		10	
		17	

計13回(内2回は体験)
 実際の実施回数計11回(内2回は体験)

計20日
 計19回実施予定(内2回は体験)

<資料6>

ダンスクラブ体験・見学会(21日) タイムスケジュール

参加者	5月21日	18名	※両日の重複を除き
	28日	14名	22名の希望者

14:15	○学生迎え 担当:○○(2:45戻り) 全体指揮 担当:●●	駐車スペースの確認
14:30	○参加保護者 車の誘導 担当◎◎(2:45まで)	
14:30	○会場の準備 担当:◇◇	
14:45	体育館集合	
	○受付 担当:◆◆ *名簿チェック *名札(ガムテープ)の指示 ※各自で書いてもらう *配布物 1.資料(計画書と日程の2枚) 2.グループ分け名簿(ダンスタイムの2に使用) 3.参加申込書	<用意するもの(体育館用)> ・ガムテープ・マジック・鉛筆・レジメ ・名簿・参加申込書・グループ名簿 ・机(小なら2台/大なら1台)体育館の近くの教室から借りる。 ・講師用ドリンクの用意
14:55	開始挨拶 進行:□□ 15:00 1.本日の流れをザックリ説明 2.講師紹介 ※参加者の自己紹介は体験につき割愛 ■ ■さん・△△さん・▲▲さん・○○さん	今回は大きく肢体と知的にのみ分けています
15:05	<児童・生徒> 見守り及び状況把握 担当:▽▽ ダンス開始 ※以下ダンスタイムの進行は講師に一任	<保護者> 説明会 担当:▼▼ ※同時進行で資料に沿って説明 場所:体育館
	1.準備体操 トラベリング ※講師と、動きを把握している生徒は前に出る	
	15:10 2.ダンス トリップホップ系 ※2グループに分かれる	
	15:30 3.みんなで踊ろう ト曇りのち快晴	
15:35	ダンス終了 着替えなど	
15:45	解散	<持ち物> ※CD(3曲)は学生持参 ※CDプレイヤー(1台)は△△さん持参..今回は1台で行います
15:50	○講師と次回打ち合わせ(反省と練り直し) 参加者:※※	

PTA 会員各位

県立我孫子特別支援学校
PTA 会長 関口えみ子

ダンスクラブ体験・見学会

やわらかな緑が春風に吹かれ、すがすがしい季節となりました。子ども達も新しいクラスに慣れ、活発に過ごしている姿を頼もしく感じます。

さて、今年度の PTA の新たな取組みといたしまして、クラブ活動の実施を予定しております。まずは、体験・見学会を行いますので、今後の参加を検討していただく機会にさせていただければと存じます。みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。ご希望の方は参加申込書にご記入の上、クラス担任の先生までご提出下さい。

尚、体験・見学会当日の生徒のみの参加はできませんので、必ず保護者の方のご参加にご協力下さいますようお願い申し上げます。申し込み締め切りは5月14日(木)です。事前準備の都合上、急な当日参加はご遠慮ください。

記

日時 : 平成21年5月21日(木) 及び 平成21年5月28日(木)
3:00~4:00 (高等部の自力通学の生徒は3:20からの参加になります。)

場所 : 本校体育館 (人数等の都合により変更の場合はご連絡いたします。)

以上

Family あよう

かがやく笑顔と未来のために



お問い合わせは総務部まで

ダンスクラブ体験・見学会参加申込書

いずれかに、まるを付けて下さい。

- ・5月21日(木)に参加します。
- ・5月28日(木)に参加します。
- ・両日とも参加します。

参加者氏名 : _____ 学部 _____ 年 _____ *連絡先 _____

<資料7> 見守り当番表6・7月

当番
 毎回付き添う
 予定あり

学部・年	氏名	6/4	6/11	6/18	6/25	7/2	7/9	7/16
小・4	F・N	欠		欠				
小・4	T・S			欠				
小・4	K・H			欠				
小・4	O・S	欠		欠				
小・6	I・N							
中・1	S・Y							
中・3	S・M							
中・3	S・T							
高・1	O・T							
高・1	S・Y							
高・1	N・T							
高・1	N・M							
高・2	S・T							
高・3	H・T	欠			欠			

守り人数合計 3 6 5 6 9 7 9

<当番の仕事>

- ①14時30分図書室集合
- ②CDプレイヤー2台、CDその他一式用具の入ったカゴを会場へ運ぶ
- ③講師の飲み物を冷蔵庫から会場へ運ぶ(6本程度) ※冷蔵庫は調理室内
 ※その際、次回の分を冷蔵庫に補充しておいて下さい。(飲み物も戸棚の中)
- ④ホワイトボード(脚付き)を体育館ステージに設置する。
- ⑤ダンスタイムの見守り 日誌の記入
- ⑥終了後、用具を元に戻す。

<資料7>

ダンス部 見守り当番表 11・12月

	10月21日	10月28日	11月4日	11月11日	11月18日	11月25日	12月2日	12月9日	12月16日
O・S	○					○			
K・H		講師送り		○		講師送り			
T・S			講師送り		○		講師送り		
I・N		○		講師送り				講師送り	
K・W			○						○
S・M	講師迎え								▶
S・T	○						○		
N・M		○						○	
S・Y			○				○		
N・T					○				○
S・T	講師送り				講師送り	○			講師送り
H・T				○				○	

<当番の仕事>

■午後2時30分登校 備品は全て視聴覚室の戸棚(下段)にダンボール箱に入れて置いてあります。(入り口右手の戸棚です、ダンス部のシールが貼ってあります)

■体育館へ運ぶ備品 一度に運ぶ場合は、エレベーター前の台車をご使用下さい。
 ①CDプレーヤー 2台 ②タイムエイド
 ③文具類(手提げ袋入り) ④講師飲み物(4~5本)
 ⑤ホワイトボード(ボード用のペンとクリーナーは文具の袋に入っています)

※2時45分には学生さんが到着します。
 ※終了後の片付けは学生さんが行ってくださいますので、当番の仕事は特にありません。

※都合のつかない日がありましたら、〇〇までメールして下さい。



練習風景 初夏



まだ始まって数回目の活動だが、笑顔がいっぱいで楽しそう♪

<資料 8>

2009 ダンスクラブケースファイル

記入日 年 月 日 / 記入者(続柄)

氏名	愛称
学年 学部 年 組	保護者氏名
帰宅の状況 自力 保護者のお迎え	携帯(緊急連絡先)アドレスも記入してください。
見守りのローテーションができない日(前期の活動は木曜日、後期は水曜日になります)日程のわかる範囲でご記入ください。	
誘導について	<p>集合場所(図書室)から活動場所(主に体育館、視聴覚室など)まで移動する際に注意することがありますか?</p> <p>ない</p> <p>ある→状況と対応を具体的に書いてください</p> <hr/> <hr/>
活動について	<p>毎回、活動スケジュールの流れは①ダンスの練習 ②休憩(水分補給)③先生のダンスを見る事が含まれます。各項目の当てはまるところに○をしてください。また、特別に配慮する事があれば具体的に書いてください。</p> <p>■集合の合図について 一斉指示で理解できる / 個別の声かけが必要 / 個別の誘導が必要 サポートしてほしいこと_____</p> <hr/> <p>■参加について その場で言葉の指示が通じる / 個別に文字や絵でスケジュールを提示する必要がある / 大人が付き添い誘導する必要がある サポートしてほしいこと_____</p> <hr/> <p>■終わりについて その場の指示で理解できる / タイムエイドを使うなど個別の支援が必要 サポートしてほしいこと_____</p> <hr/>
その他	<p>本人が混乱しやすい状況や言ってはいけない言葉(NGワード)など配慮すべき事柄があれば書いてください</p> <hr/> <hr/> <hr/> <p>パニックしやすい状況と対応方法をかいてください</p> <hr/> <hr/> <hr/> <p>伝えておきたい事を書いてください</p> <hr/> <hr/> <hr/>



いよいよ正式なクラブ活動が始まりました！！

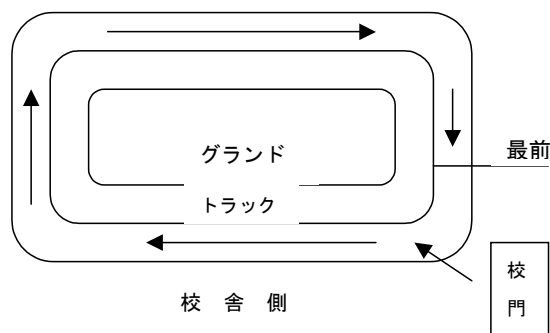
- ♪日 時 6月4日（木曜日）～ の毎週木曜日（※前期のみ） 午後2時45分～
※体験時にお渡しした日程表で確認して下さい。
- ♪場 所 体育館（その他）※お迎えの保護者の方は直接体育館へお越し下さい。
※当日場所が変更になる可能性があります。その場合は
昇降口に貼り出します。
- ♪連絡帳への記入 クラス担任はお子さんの参加を把握していますが、お子さんの連絡帳に、
クラブ活動参加の旨（又はキャンセルの旨）を必ず一言お書き添え下さ
い。
- ♪駐車場所 校庭（グラウンド）外周 ・ ・ ・ 下図のとおり
※必ずコンクリート部分を進んで下さい。（芝部分にご注意下さい）
※外部の方や先生方の車の出入りがありますので、外周以外のスペース
には駐車しないで下さい。
- ♪当日のキャンセル等の連絡
事前に、又は急な予定の変更がありましたら、下記へご連絡下さい。また、
スクールバス乗車の都合がありますので、クラス担任にもご連絡下さい。
事前の変更やお問合せ 090-0000-0000
- ♪その他 ①たくさん汗をかきます。休憩中や終了後の水分補給・着替えなどは必要に応じ、
お迎えの際保護者の方がご持参下さい。又は余分に持たせて下さい。
②当番の注意事項については別途当番表を配布します。

フェンス側



駐車場所はグラウンド外周

毎回15台程度が駐車予定。
前から順番に停めて下さい。





「ダンスクラブ」のみなさまへ

もうすぐ夏休み！！お楽しみ会のお知らせ！！

正式な活動が始まり、一月以上が経過しました。はじめは「何が始まるのか...」と様子を観察していた子ども達も、少しずつ環境や雰囲気、音にも慣れてきている様子が伺えます。また、ダンスが大好きなお子さんは毎回笑顔で楽しんでいます。講師の学生さん達との交流もあり、プラスαの効果も見られています。

このような流れの中で夏休みに入ります。このまま一月間お休みになるのはもったいない？ので、夏休みのお楽しみ会を下記の内容で企画しました。

また、本校のスーパーバイザーとしてお馴染みの田熊先生もご参加下さいますので、ダンスタイム終了後、田熊先生と学生さんと保護者で学習会を企画しました。奮ってご参加ください。

記

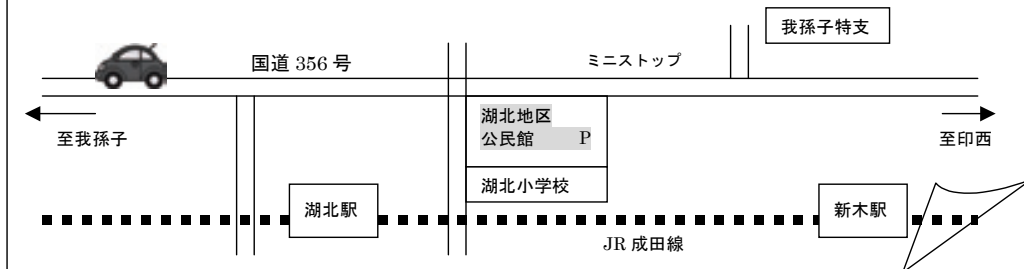
- ♪日 時 8月17日（月曜日）午後12時～15時まで
- ♪場 所 湖北地区公民館 2階 第2学習室
※下の地図参照（駐車場あり）
- ♪内 容 12時～ ランチタイム
13時～ ダンスタイム
14時～ 子どもはおやつタイム
学生・保護者は学習会

講師：田熊先生
『子ども達の動きの特徴や指導方法について』

♪当日のキャンセル等の連絡

事前に、又は急な予定の変更がありましたら、下記へご連絡下さい。

事前の変更やお問合せ 090-0000-0000



—夏休みダンスクラブ 参加申込書—

締め切り 7月17日

学部 部 年 名前

・参加する場合 ボランティアさんが 必要 必要ない
※担任の先生へ 吉本教務主任へお願いします。

<資料11>

ダンスクラブ 評価アンケート

I. お子さんについてお書きください

学年 _____ 部 _____ 年 _____ 性別 _____ 男 _____ 女 _____
クラブには何月から参加していますか? _____

II. ダンスクラブの活動について

①週1回の活動日数について	多い	少ない	ちょうど良い
②活動時間について	長い	短い	ちょうど良い
	早い	遅い	ちょうど良い
③活動内容について	適当	不適當	どちらともいえない

↓

理由: _____

④発表回数について (親子レク・あよう音楽祭の2回を予定)	多い	少ない	ちょうど良い
⑤体験期間について (前期2回・後期2回)	多い	少ない	ちょうど良い
⑥長期休暇中の活動について (夏休み中に1回)	多い	少ない	ちょうど良い
⑦学習会の内容について	適当	不適當	どちらともいえない

↓

理由: _____

III. 子どもの様子と活動の評価について (そう思うものに○して下さい)

■ ダンスクラブに参加した理由

- ① 子どもが希望したから
- ② 親の希望により (子どもがダンスを好きだから等の理由により)
- ③ 余暇の興味を広げたかったから
- ④ 友人・知り合いが参加していたので興味があった
- ⑤ その他 _____

■ 参加しての感想

- ① 子どもが楽しそうなので続けたい
- ② 活動になじむまでに思ったよりも時間がかかった
- ③ なかなか活動に参加できずにいるが時間をかけて臨みたい
- ④ なかなか活動に参加できないのでやめようと思っている
- ⑤ その他 _____

■ クラブ活動に対しての感想

- ① クラブ活動は子どもの余暇支援として有効だと思う
- ② 現在の活動は余暇支援としては有効とは思えない
- ③ ダンスクラブ以外の活動があればもっと参加してみたい
- ④ その他 _____

■ クラブ活動を続ける上で困難に感じたこと

- ① 保護者の見守り当番
- ② お迎えに来なければならないこと
- ③ 兄弟を連れての参加ができないこと
- ④ 自分の子どもを預けることが困難と思われるため毎回親も参加することになってしまう
- ⑤ 経済上の理由
- ⑥ 学校との連絡調整
- ⑦ その他 _____

IV. 運営について

■ ボランティアの学生

- ① 来年度も参加してもらいたい
- ② もっと学生の人数を増やしたい／減らしたい
- ③ メンバーを変えてほしい
- ④ もっと関わり方について学んでほしい
- ⑤ その他 _____

■ 保護者

- ① 保護者の負担を減らしてほしい どのように？
- ② 活動費の徴収をした方がよい 金額は？
- ③ 当番制は継続した方がよい
- ④ その他 _____

■ 学校

- ① 顧問の先生をつけてほしい
- ② 安定した活動場所の提供をしてほしい
- ③ 安定した運営のために積極的に支援してほしい
- ④ 自由に活動を展開していくためには今のままでよい
- ⑤ その他 _____

V. 今後のクラブ活動のあり方・運営について

(自由記述となっておりますが、自由にドンドンと意見をください。)

- クラブ活動を安定的に続けていくためにはどのような組織作りが必要だと思いますか？参加している個人の負担が重くならないようにするための意見をお書きください。

- 今後ダンスクラブ以外の活動を広げていくとしたら、どのように展開してゆくのが望ましいと考えますか？具体的なプランがありましたらご意見をお願いします。

- 今後活動を続けていくために要望したいこと（学校・保護者・地域・行政など何でもOKです）を具体的にお書きください。

- その他何でも自由にお書きください。

ありがとうございました。皆さんの意見を反映できるよう頑張ります。

<資料12>

ダンスクラブ評価アンケート 集計結果

配布数 13

回収数 13 回収率100%

■ 活動について

週1回の活動日数について	多い 0 少ない 1 ちょうど良い 12	★ 運営体制が整えば週2回の活動でもいいと思うが、現状のままでは週1回が保護者の限界
活動時間について	長い 0 短い 2 ちょうど良い 11	★ 「短い」は高等部保護者からの意見
活動内容について	適当 8 不適當 0 どちらともいえない 5	★ 今時のダンス素材にこだわる必要はない ★ 体制が整うなら踊れない子どもが参加しやすい工夫を考えてほしい ★ 子どもがよく知っている曲でリトミック的な要素を取り入れてほしい ★ 個別に配慮された課題提供とまではいかないが、1年目ということもあり、まずは妥当。
発表回数について	多い 0 少ない 2 ちょうど良い 11	
体験期間について	多い 0 少ない 1 ちょうど良い 12	
長期休暇中の活動について	多い 0 少ない 6 ちょうど良い 7	
学習会の内容について	適当 11 不適當 0 どちらともいえない 2	★ 「どちらともいえない」理由としては参加をしていないから

■ 子どもの様子と活動の評価について（複数回答あり）

ダンスクラブ に参加した理 由	子どもが希望したから	8	
	親の希望により	3	
	余暇の興味を広げなかったから	8	
	友人・知り合いが参加していたので興味があった	0	
参加しての感 想	子どもが楽しそうなので続けたい	10	★なじむのに時間がかかっているが、通常と違う雰囲気や人に慣れていってほしい
	活動になじむまでに思ったよりも時間がかかった	1	
	なかなか活動に参加できずにいるが時間をかけて臨みたい	2	
	なかなか活動に参加できずにいるのでやめようと思っている	0	
クラブ活動に 対しての感想	クラブ活動は子どもの余暇支援として有効だと思う	11	
	現在の活動は余暇支援としては有効とは思えない	0	
	ダンスクラブ以外の活動があればもっと参加してみたい	6	
クラブ活動を 続けていく上 で困難に感じ たこと	保護者の見守り当番	3	★親も楽しんでいるので今のところ困難に感じることはない
	お迎えに来なければならないこと	3	
	兄弟を連れての参加ができないこと	1	
	自分の子どもを預けることが困難と思われるため親も毎回参加することになってしまう	3	
	経済上の理由	0	
	学校との連絡調整	0	

■ 運営について

ボランティア の学生	来年も参加してもらいたい	12	★大変よくやってくれていると思う。学生さんがいる日といない日では子どもたちの反応が違う。
	もっと学生の人数を増やしてほしい	2	
	メンバーを変えてほしい	0	
	もっと関わり方について学んでほしい	0	
保護者	保護者の負担を減らしてほしい	2	★ 活動費は必要であれば年間 ¥1000～2000程度の 範囲で徴収した方がよい ★ 見守りなど相応の負担は必要 ★ 当番は一人でもいいのでは？
	活動費の徴収をした方がよい	4	
	当番制は継続した方がよい	12	
学校	顧問の先生をつけてほしい	8	★その他の意見としては「何でもかんでも学校や先生に任せればよいというものでもない」
	安定した活動場所を提供してほしい	1	
	安定した運営のために積極的に支援してほしい	6	
	自由に活動を展開してゆくためには今のままでよい	2	
	その他	1	

■ クラブ活動を安定的に続けていくためのご意見

- * 活動の初年度としてはちょうど良い参加人数だったと思う。見守り当番二人体制でうまくいったが、今後メンバーが増えると二人では少ないかもしれない。組織として別立ての本部があると良いと思う。
- * クラブ活動を継続するためには運営の中心を継続的に担っていただける顧問の存在が必要だと思う。保護者はサポートとして動くのが理想的。
- * 学校と親が協力してすすめていくことが大切だと思う。

■ ダンスクラブ以外の活動の展開について

- * 合唱、体操、リトミックなどのダンス以外の活動があるといいと思う。(具体的な展開についての意見はなし。)

■ 今後活動を続けていくために要望したいこと

- * 顧問の先生を各学部に一人ずつつけてほしい。
- * 先生方の業務多忙は理解はしているが、週に 1、2 回 / 1 回 1 時間程度の協力をしてもらえるよう学校側も前向きに検討してほしい。
- * 体験は期間を決めなくてもいいと思う。

■ その他

- * 完成度ではなく、まずは子どもたちが楽しむことを目的の一つ一つステップアップできるといい。地域でのイベントでダンスの発表をする機会を作ってもらうなど、学校外での発表の機会があると目標になるし、地域の人たちにも特別支援学校の子どもたちを知ってもらいいいきっかけになるのではないだろうか？
- * 1 2 月の発表を見ていて思ったのは、踊りの上達度とは別に、低年齢の子どもたちが舞台の上で一人で立ってられるようになったり、時々模倣ができるようになったりしてその子なりの成長が感じられるようになったということ。踊り好きの子たちは楽しそうだし、少し照れる年齢の子もいて個性のバリエーションもある。活動を続けていくことは大変かもしれないが、目的である将来に向けての余暇支援という意味では大きな力を発揮していると感じた。
- * 指導してくれる学生さんに対して親が協力する意識を持つこと。挨拶もできないようではあきれられてしまいます。
- * 働いているお母さんからクラブに参加したいがお迎えができないので参加できないとの意見がある。クラブ終了後の子どもの迎えについて何とかならないものだろうか？



「障害のある人の地域安全ネットを作る」

神奈川県立麻生養護学校PTA

目 次

1. 本校の概要	-----P. 3
2. インクルージョンの理念に基づく教育活動（本校のミッションとビジョン）	-----P. 3
3. P T A活動について	
(1) 柿P塾	-----P. 3
(2) 放課後・休日活動支援	-----P. 4
(3) 柿Pキャラバン隊	-----P. 4
4. 地域セイフティ・ネットの構築	-----P. 4
5. 柿Pキャラバン隊の活動ー地域への障害理解啓発ー	
(1) 取り組みの経過	-----P. 6
(2) 取り組みの実際	
① 近隣中学校での学校紹介から	-----P. 6
② ボランティア講座での講師として	-----P. 7
③ 講演会の開催	-----P. 10
6. 防災シミュレーションー災害避難所体験訓練ー	
(1) 取り組みの経過	-----P. 12
(2) 取り組みの実際	-----P. 12
7. まとめと今後の課題	-----P. 14
(参考文献)	-----P. 14

1. 本校の概要

神奈川県立麻生養護学校は、平成18年4月に開校した4年目の学校です。肢体不自由部門と知的障害部門を併せ持ち、小学部、中学部、高等部で、全児童生徒数は304名、教職員数は186名の大規模な特別支援学校です。各部門、学部ごとの児童生徒数は以下の表の通りです（平成21年5月現在）。

	小低 学年	小高 学年	中学 部	高等 部	在宅 訪問	施設 訪問	合 計
肢体不自由部門	10	8	13	14	3	12	60
知的障害部門	34	45	58	107			244
合 計	44	53	71	122	3	14	304

神奈川県川崎市北部に位置していますが、横浜市に隣接しているため、児童生徒は両方の市から通学しています。通学区域は、2市4区にまたがり、スクールバス（大型）5台では対応しきれずに、保護者による自家用車での通学送迎や、公共の交通機関を利用した自力通学に早い時期から取り組むなど、保護者の負担も大きくなっています。また、福祉有償運送を利用した通学送迎をNPO法人に委託するなど、学校独自の取り組みもしています。

重症心身障害児施設に施設訪問学級、県立高校に分教室を設置するとともに、施設からの通学や在宅訪問にも対応しています。

2. インクルージョンの理念に基づく教育活動（本校のミッションとビジョン）

本校の教育の基本理念は、一言で表わせば、「インクルージョンをめざす学校」です。インクルージョン(Inclusion)とは「包摂・包括」と訳されますが、その反意語であるエクスクルージョン(exclusion:排除)から考えるとわかりやすいでしょう。つまり、「排除しない」ということです。

そして、「インクルージョンの理念に基づいた地域変革を積極的に推進する」ことをミッションとして掲げています。①チームで取り組む教育のシステム化 ②学校のオープン性をビジョンとし、人権支援センターとしての役割を担っていくことをめざしています。

地域支援センターの中核となる支援連携部には、9名の専任スタッフが配置され、相談支援、移行支援（進路指導）、地域連携協働の係分担で動いています。近隣の学校等に向けた地域のセンター的役割はもちろん、地域の一般者向けの人権研修や障害理解の学習会も行っています。

教育目標は、以下のとおりです。

- 社会参加と自立のために、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育を行い、生きる力を育てます
- 共に支え合う地域社会の実現のため、地域の活性化に貢献する教育活動を推進します

3. P T A活動について

開校初年度より、保護者と教職員との協働で、P T A活動には積極的に取り組んできました。子どもの障害種や程度、学部・学年、広い通学区域などを超えて、みんなで作る、みんなが参加したくなる、楽しいP T Aを目指しています。ここでは、いくつかの特徴的な活動を紹介します。

(1) 柿P塾

保護者のための学習会、講習会、その他の集まりの総称です。「柿P」というのは、柿生（かきお）にある学校で、柿をイメージした「かきおくん」というキャラクターもいるところから「柿」、「P」はP T Aの「P」から名付けました。講師をお呼びしての講演会、キムチ作り

やリース作り等の講習会、進路についての企業や施設の見学会、サロンのような保護者同士の情報交換会など、幅広い活動を行っています。肢体不自由、知的障害で分けるのではなく、お互いに学び合い、高めていくことで、たくさんの保護者が参加しています。

(2) 放課後・休日活動支援

大規模な学校なので、部門別、学部別、場合によっては学年別に余暇活動を実施していくことが、きめ細かな支援につながっていきます。放課後や休日に行き場がない、外に出にくい親子のために、集まれる場を作り、それぞれの子どもに合った活動を用意すると同時に、親は情報交換やおしゃべり、時には愚痴を言い合って、気分転換の場となるよう工夫をしています。

活動には、地域のさまざまな資源を利用しています。音楽活動、布おもちゃでの遊び、アロマテラピーは、定期的に行っています。夏休みには、夏まつりや実行委員会形式でのプール開放の他、地域の障害児関係機関の連絡会と共催で「夏休みを楽しくすごす会」としてさまざまなイベント（音楽、ダンス、和太鼓等）を企画し、地域のタイムケア等の事業者にも参加してもらっています。

(3) 柿Pキャラバン隊

子どもたちのことを地域に知っていただくために、お母さんたちが女優になって、キャラバン隊としてあちこちを回り、理解啓発のワークショップを開催します。また、リーフレットなどを配り、地域住民や関係機関等に周知を図っていきたくと考えています。

本研究では、このキャラバン隊の活動を中心として、理解啓発のプログラム作りからボランティア講座での実演、防災シミュレーションについて取り上げることとしました。

4. 地域セイフティ・ネットの構築

「セイフティ・ネット」は文字通り「安全網」、障害のある人、子どもたちが地域で安心・安全に暮らしていくためのネットワーク（網）です。ここ数年、全国的に障害児・者のためのセイフティ・ネット作りが盛んになってきています。障害当事者、保護者、家族、学校職員、支援者、関係機関等が手をつなぎ、それぞれの地域に合った活動を展開しています。例えば、K-Pro（ケープロ）の活動では、知的障害者の特性を警察職員に理解してもらうことで、防犯面での安心・安全を保障しています。同様に、医療機関、公共交通機関、商店・コンビニ等へのはたらきかけも始まっています。

一方で、もっと身近な近所の人、民生委員さん、ボランティアの学生、小中学校のクラスメイト、学校職員等に、子どもを特性を理解してもらおうと、保護者が個人的に一生懸命はたらきかけをしている現状もあります。

あさお柿Pセイフティ・ネットでは、PTAを中心として、学校、地域関係機関等とネットワークを作りながら、組織的に子どもたちのことをアピールしていくことで、安心・安全な住みよい街作りをしていこうと考えています。そして、昨年度より、有志で2回の作戦会議を開いてきました。防犯・防災、権利擁護、バリアフリー、理解啓発・・・、あさお柿Pセイフティ・ネットとしてできること、やりたいことはたくさんあります。子どもたちのことを理解してもらうためのリーフレット作り、そしてキャラバン隊を結成しての理解啓発活動（寸劇などを通して一般の人に障害について理解してもらう）、防災シミュレーションによる災害時の避難所体験訓練等、自分たちの目線で、自分たちのできることを、一歩ずつ取り組んでいくこととしました。

「あさお柿Pセイフティ・ネット」について

1. 目的

本校及び地域の障害児が、地域で育ち、地域で学び、地域で生きるために、地域のネットワークを強化し、権利擁護活動と地域への理解啓発活動を実践することで、ソーシャル・インクルージョンの実現を図る

2. 組織

学校／P T A／町内会・自治会／社会福祉協議会／主任児童員・民生委員児童委員／障害者関係機関／医療機関／その他関係機関

3. 内容

◆ 日常的には・・・

- ① 通学時の見守りや公共交通機関への啓発
 - ・電車・バス利用
 - ・学校近隣歩行時
- ② 通学支援の充実
 - ・フォーマル（福祉サービス）
 - ・インフォーマル（ボランティア等）
 - ・本人・保護者への支援
- ③ 移動困難へのバリアフリー／ユニバーサルデザインの推進
- ④ 放課後・休日活動支援

◆ 非日常で・・・

- ① 防災（大震災、大災害）時における避難場所としての学校・・・町内会との関係
- ② 行方不明、徘徊時の見守り、協力依頼
- ③ 保護者の病気、不在の際の相談、対応

◆ 具体的な動きとして

- ① 柿Pキャラバン隊：理解啓発（寸劇や疑似体験を通して障害理解を推進）
- ② リーフレット作成：理解啓発のために関係機関、公共交通機関等に配布
- ③ 余暇活動の地域展開：余暇活動支援委員会を中心に実践
- ④ 防災シミュレーション：自閉症協会川崎支部との協働による実施
- ⑤ コンサートやアートによる理解啓発推進
- ⑥ ボランティア・バンク
- ⑦ 地域マップ作成：防犯・防災目的もあるが、利用できる地域資源を掲載
- ⑧ 広報活動

4. スーパーバイザーとして協力依頼

- ・ 堤真理子氏（NPO法人コスモスペース）
- ・ 明石洋子氏（社会福祉法人あおぞら共生会・川崎市自閉症協会会長）
- ・ 堀江まゆみ氏（白梅学園短期大学）

主な取り組み経過は次の通りです。

期日	内容	備考
9月03日	研究会	事業実施について
9月11日	理解啓発活動	近隣中学校にて、座間キャラバン隊の講座に一部参加
10月13日	勉強会	DVD「知的障害や自閉症等のある人たちをトラブルから守る」視聴
11月02日	勉強会	DVD「座間キャラバン隊」視聴
12月24日	研究会	事業実施について
1月14日	講演会	堀江まゆみ氏・南雲明彦氏
1月19日	研究会	事業実施について
1月22日	研究会	事業実施について
1月24日	防災シミュレーション訓練	川崎市自閉症協会と共催
1月25日	ボランティア講座	麻生区社会福祉協議会主催

5. 柿Pキャラバン隊の活動ー地域への障害理解啓発ー

(1) 取り組みの経過

昨年度より、障害児・者の権利擁護や理解啓発活動について、PTA役員を中心に「作戦会議」や研修会等を通して理解を深め、自分たちにできることは何かを考えてきました。参加した保護者からは次のような声が聞かれました。

- ・ 地域の子どもたちが障害児を見る目が気になる
- ・ 小さい子は、素朴に質問をしてくる。受け入れてくれる →啓発の可能性
- ・ 家から抜け出してしまいお店で見つかる、スーパーなどで親の目を盗んでさあ一つと走り出してどこかへ行ってしまう →お店への理解啓発
- ・ 小・中学校の教員がクラスの子どもに説明する時の伝え方
- ・ 外でひとりでいるときに、てんかん発作が起きたときにどうするか・・・
- ・ 自力通学の時にバスで困っているときに運転手に怒られた。それを見ていた乗客が運転手に抗議してくれた →公共交通機関への啓発
- ・ 小学校のときに、クラスの保護者に理解を求めたり、子どもたちには体験授業等をしたことがある
- ・ 夜中に起きていて声を出すことがあり近所に申し訳ない
- ・ 学校のように守られている中ではよいが、社会に出ると大変
- ・ エレベーターに乗るのに待たなければいけない
- ・ 雨で、母親一人で病院に連れて行くのが大変
- ・ 歩道のバリアフリー化がまだまだ進んでいない

また、堀江まゆみ先生（白梅学園大学教授）からは、保護者が理解啓発活動をしていくことについて次のようなアドバイスをいただきました。

- 保護者が啓発活動をするのは、「母たちの社会化」である。親だからこそ伝えられる、親だからこそその社会的役割である
- 親たちのエピソードにもとづき、ここ麻生ならではの活動ができるとよい
- うまくやるための3つの視点 ①視点の交換（ロールプレイ） ②楽しくやること（アンカー効果をねらって） ③成功体験を入れる

「セイフティ・ネットを構築しなければ…」と大上段に構えるのではなく、障害児を育ててきた親としての思いを周囲に伝えていくことで、子どもたちのことを理解してもらえる機会を作りたいと思い、「柿Pキャラバン隊」を立ち上げることにしました。メンバーは、卒業生保護者会とともに有志9名でスタートし、気負わず、楽しくできる活動を考えていきました。折しも、麻生区社会福祉協議会からボランティア講座での講師としての出演依頼があり、そこに合わせてプログラムを作っていくことにしました。

キャラバン隊の活動は、座間キャラバン隊、キャラバン隊「空」（市川手をつなぐ親の会）、キャラバン隊「レインボー」（都立あきるの学園）等、全国でさまざまな団体が先行して実施されていて、活動を組み立てる際には、参考にさせていただきました。

また、前述の堀江まゆみ先生（白梅学園大学教授）をスーパーバイザーとしてお迎えし、講演会を通して学ぶ機会を与えていただくとともに、プログラム作りにもご協力いただきました。

(2) 取り組みの実際

① 近隣中学校での学校紹介から

キャラバン隊による啓発活動の先駆けとして活躍されている「座間キャラバン隊」が、本校の近隣中学校で講演する際に時間をいただけることとなりました。5分ほどの中で、学校のことや子どもたちのことを紹介し、中学生や教職員に理解を深めてもらうことができました。

(パワーポイントを使ったスライドの一部)



② ボランティア講座の講師として

川崎市麻生区社会福祉協議会のボランティア講座の講師として、キャラバン隊の活動を実施してほしいとお誘いを受けました。先の中学校での経験を下に、自分たちでプログラムを考え、実際に体験したり、考えたりする中で、障害のある子どもたちや親の思いを理解していただける機会となりました。

柿Pキャラバン隊 公演「知ってもらいたい 私たちのこと」 シナリオ

◎実施日時 2010年1月25日(月)10時～12時

◎場所 福祉パルあさお 研修室

◎内容 「知的障害・発達障害への理解を深めよう！～知的障害の疑似体験を通じて～」

◎私たちのこと(こどもたちのこと、親の気持ち、家族の気持ち)やこどもたちの通う学校(麻生養護学校)のこと、地域の重要性、優しい支援が必要であること、観ていただきたい映画や読んでいただきたい本の紹介などもします。

1. はじめに・・・代表挨拶

2. 私たちのことをお話しします

◎麻生養護学校の紹介はスライド(パワーポイント)を見ながら聞いていただきます。

①たくさんの皆さんが切望し、願いが叶い「川崎市北部方面養護学校」ができました。それが麻生養護学校です。

②場所の説明(旧柿生高校の跡地であること、開校4年目であること)

③児童生徒数の人数、通学エリアのこと、肢体不自由部門、知的障害部門のこと、学部

の人数構成の説明。

④スクールバスの紹介

⑤校長先生と生徒の写真、場所は麻生区早野の田んぼにて

子ども会連合会のかかしづくりに出展して入賞したことをはじめとして、王禅寺町内会のご協力で毎年かかしを作らせていただいていることの報告、地域の皆さんの協力で季節の行事への参加できることの感謝の気持ちもお話する。

⑥パッチ・アダムス氏訪問時の写真

たくさんの素晴らしいゲストが「麻生の丘」を上ってきてくれました。

⑦校長先生と肢体不自由児との写真

子どもたちは職員室へもお話に来てくれます。校長先生との語らいは大好きな時間です。

⑧知的部門高等部沖縄修学旅行の写真（たのしい思い出の話）

⑨☆柿祭での肢体不自由児部門の演技の写真（たのしい舞台の話）

⑩☆柿祭での知的部門中学部の演技の写真（はつらつとしたダンスの話）

⑪校章の写真

本校の開校準備室が当時あった県立市ヶ尾高校の生徒さんがデザインしてくれたこと、校章へ込められた意味の話、校章を付けた生徒を路線バスや電車で見かけた際は「どうぞ見守ってください」のお願いなど

⑫本校のアイドル・キャラクターの説明

柿生あさおくん&王禅寺虹子ちゃん。地域の名前から命名し、本校教員がデザイン。学校関係の様々なところで活躍していることをお話する

⑬校庭と校舎の写真「これからも麻生養護学校をよろしく願います」

◎特別支援学校とは？ の簡単な説明をします。

◎私たちの活動のこと（意味や願いなどをお話します）

◎柿Pキャラバン隊のメンバーの自己紹介（こどもの年齢や障害名なども）

3. 紙芝居を読みます

P&A 大阪の紙芝居

自閉症児の特徴がよく表わされています。

4. 疑似体験「ワークショップ」

「これから、実際によく起こるシーンをみていただきます。母親の気持ち、本人の気持ち、周りにいる人々の気持ちなどを想像しながらご覧ください。」

◎シーン1 病院の待合室（終了後はインタビューでつなぐ）：母の気持ち

・待合室の患者役を2～3人募る

○マコちゃんと母→病院へ行くこと、静かに待っていてね、ということは事前に注意してある。待ち時間が少し長くなってきて、待てないマコちゃんは、動き回る。患者さんの持ち物や、身につけている物で、興味のある物に近づいたり、触ったりする。注意されると余計にやり、パニックにもなる。まわりはびっくり、母は気が気でない。
→順番が待てない、わからない。いつもと違う場所は苦手。状況に適應できない。叱られるとパニックになる。説明しても理解ができない。医療関係への理解。母の肩身の狭い思い。見守ってほしいこと。

◎シーン2 お店でお買いもの：本人の自立のために

・レジで並んでいる役を2～3人募る

○ツグちゃんはお母さんにお買い物をお願いされました。事前に何度か行ったことのあるところで、母親は顔見知りの店員さんに、買い物に来ることがあることをお願いしてある。並んでいる順番がきてから、お財布をゆっくり出し、お金を出すのも遅い。周りの人の

視線も。

→社会生活の経験が少ないので、できるだけ体験させていきたい。買い物や交通機関の利用など練習が必要。順番が来ても先が読めないので準備ができていない。お財布を出す、お金を出すのに時間がかかる。動作がゆっくりなので、せかしても効果なし。むしろパニックに。周りの人がイライラしてくるが、お店の方の理解や手助けが嬉しい。あたたかい目で。

◎シーン3 体験コーナー : できないことの体験

・動作がゆっくりなのは、どうしてでしょうか？

できないこと 例えば・・・の体験。

・軍手を2組配る。重ねてはめてもらう。折り紙を1枚配る。前で担当者が、説明しながら「つる」を折っていく。周りの声かけ。うるさく。

→思うようにできない。一生懸命にやってもきれいにできない、うまくいかないことを体験。周りで「早く」「きれいに」「なんでできないの？」とせかされたときのイヤな気持ち、やる気がなくなる。一生懸命やっているのだから、もう少し待って欲しい。できるところは自分で、できないところは手伝ってもらえると嬉しい。「励ます」「褒める」など。

5. まとめ

- ・ちょっと変わっているようにみえる行動ですが、見え方、感じ方、表現の仕方が私たちとちょっと違う。むしろ、ものすごく記憶力がよかったり、感性に優れていたり（芸術）豊かな面も。
- ・バランスの悪さ、不器用さがある。「困った人たち・・・」ではなく「困っている人」たちであること。
- ・あたたかく見守っていただくこと、困っていたら小さな支援を。
- ・社会へ出ていくために経験が必要であること。
- ・優しい心で見守ってください。
- ・基本的にはゆっくり、短いことばで、簡潔に、○・×の提示。
- ・二者択一など、抽象的よりも具体的に→コミュニケーションハンドブック

まとめのときに、ホワイトボードへ要点項目のカードを用意します。

○の項目と×の項目を分けて、気持ちなども言葉で簡潔にして説明します。

参加者には適切な対応のヒントとして理解していただきます。

6. お伝えしたいこと

◎絵本「本当にあった話だよ」より2話朗読

・ふしぎな公約の話

・勝利の女神の話

（この絵本は、平成19年度文部科学省現代GP選定プロジェクト『アートでつくる障害理解社会の創成』により作成されました。白梅女子学園大学堀江ゼミにて制作編集。

もとのストーリーは毎日新聞社社会部副部長の野沢和弘氏の著書「条例のある街」に掲載されています）

◎作文朗読

キャラバン隊メンバーの兄弟児のもの（人権作文入賞作品）

◎母の気持ち（メンバーから2～3人）

・こどもを育てていることでの経験談（いいことも悪いことも）

7. お知らせしたいこと

◎すぐ近くで観ることができる映画（上映日時・場所のお知らせ）

「1/4の奇跡」「ぼくはうみがみたくなりました」

「筆子・その愛～天使のピアノ」「ふるさと」

◎お勧めの本

「条例のある街～障害のある人もない人も暮らしやすい時代に」

著者：野沢和弘（毎日新聞社社会部副部長）ぶどう社

「障害のある子って、どんな気持ち？ 見て、聞いて、体験して、知ろう！」

著者：座間キャラバン隊 ぶどう社

8. エンディング

参加者の中から2～3人、感想やご意見をいただきます。

③ 講演会の開催

活動をすすめるにあたって、理解啓発や権利擁護活動についての知識や情報を得ることや、当事者の思いを理解することが大切であると考え、講演会を企画した。



柿P塾 講演会報告

日時 平成22年1月13日（木） 10時～12時

場所 神奈川県立麻生養護学校会議室

受講人数 31名

演題 「障害を理解してもらってどういうこと？」

講師 堀江まゆみ氏・南雲明彦氏

※講師紹介※

堀江まゆみ氏・・・83年、東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。教育学修士。93年から、白梅学園短期大学心理学科教授。現在は、白梅学園大学兼任。厚生労働科学研究「地域社会における障害のある人のためのセーフティネット構築およびセルフアドボカシー支援」（2001-2003）、同「発達障害者支援における地域啓発プログラムの開発研究」（2004-2006）など、多数の研究の成果をもとに、障害児の親や学校の教員たちと連携しながら、セルフアドボカシーの推進や地域の啓発に力を入れている。

南雲明彦氏・・・アットマーク明蓬館高等学校 共有コーディネーター。「理解力はある程度あるが、読み書きがうまくできない」という困難に苦しみ続け21歳の時に、LD（学習障害）のディスレクシア（読み書き困難）の障がいがあることを知り、ようやく苦しみから解放され、その後は「LDは自分の中の宝物」と断言し、支援・啓発活動をしている。

※講演内容※

（前半…堀江氏・後半…南雲氏）

堀江氏

神奈川県で起こっている障がい者に対する虐待事件や性的犯罪などの現状から。決してそれは自分には関係の無い事ではなく、いつ自分の子どもが巻き込まれるかもしれない。自分たちの子どもを守るため、親としてコミュニケーションが上手くできない子どもたちや言葉のな

い子どもたちに代わって自分たちが代弁者となり、地域の人たちに伝える事の大切さ…そして、参加者に配られた医療機関のためのサポート・パンフレットを「一人ひとりが自分の地域の病院に持っていくように」と、代弁者としての第一歩の宿題を出される。また、先生の担当ゼミで制作した「本当にあった話だよ」の本の紹介や読み聞かせ。

南雲氏

文字がにじみ、ゆがみ、読み取れない。文字を書くとマスからはみ出す。感じのへんとつくりが逆になる。耳と目で学習する方法を編み出すなど、幼少期～青年期にどのような努力と工夫をしたかのお話。言葉や理解力には問題がないために、障害を知らない人たちから「ふざけている」と誤解されても理由を説明できなくて、「僕はやっぱり怠け者」と自分を責める日々。外見からは理解してもらえない障がいの苦悩や困難。両親がどのように見守っていてくれたかなど、自分に障がいがあることを知るまでの心の葛藤。自分の活動を通じて軽度発達障害に苦しむ人たちの支えにもなっていきたい。

<受講者アンケートより>

堀江氏

- ・地域への働きかけは大切なのだと改めて考えさせられました。どこかあきらめていたところがありましたが、世間的にも障がいを理解しようとする動きが出ている中、親たちが情報発信していく事が必要だと思いました。
- ・先生のお話は毎回、ハッとさせられることばかりで、地域を親が変えていかなければと反省させられました。
- ・障がい者を取りまく環境が、まだまだ厳しいと感じました。まずは自分の身の周りの人から理解していただけるよう働きかけていきたいと感じました。
- ・子どもたちに障がいについて伝える事で、その子たちが大人になった時に心温かい支援を障がいのある子にしてもらえることを期待しています。
- ・虐待防止は親が子どもの様子をよく見ていないと、いけないんだ！と再認識しました。
- ・とても勉強になりました。暮らしやすい社会には、自分たちも動かなければ！
- ・先生のお話は4回目ですが、いつも元気になって刺激を受けます。行動せずにはいられなくなるお話です。
- ・障がい者が犯罪や事件に巻き込まれるなんて、人ごとのように感じていました。でも実情を聞くと、自己防衛ができない場合が多く、言われるがままに犯罪者になってしまったり、また被害者になってしまったりすることがある、と先生のお話を聞き、いつわが子に降りかかってくるかもしれないと危機感を覚えました。小さな力ですが親として子どもの生活する地域から伝えることが出来れば！と考えさせられました。

南雲氏

- ・実体験を聞き、誤解・偏見によって本人が一番、傷つくのは勿論のこと、相手に伝わらないもどかしさが、十分理解できました。人一倍の努力には感心しています。
- ・障がいが分かって、まだ間がないのに講演を精力的にされていて感心しました。
- ・普通級で悩んでいる子は沢山いるのでしょうか…今、悩んでいる当事者や親に聞かせてあげたい話でした。
- ・もっと早く周りに理解のある人（両親以外）がいれば、こんなにも悩まずに済んだことなのでしょうね。
- ・たくさんのご苦勞、困難があつたにもかかわらず、現在ご活躍されている力は、ご両親の温かな対応があるかもしれないと感じました。
- ・具体的に何う事で、より一歩理解が進んだ気がします。貴重な活動だと感じました。
- ・外見は障がいがある事が、まったく気づかれないための大変さ、理解のされない事に共感しました。
- ・学習障害について、何も知らなかったので大変勉強になりました。まさに、第一のステップ「知る」ところから始めた感じでした。

- ・障がいがわかりにくい人の気持ちがよくわかりました。
- ・私の子どもは上手く自分の気持ちを言葉で伝える事ができないので、南雲さんは言葉で気持ちを表現できていいな！と思っていましたが…表現出来るからこそ、理解されにくい辛さ、苦しみもあるのですね。もう少しで好いから理解のある（見守り）社会になれるように頑張ってください。なかなか前に進めない背中を押していただいた気がします。私も親として出来ることから始めていきたいと思います。

6. 防災シミュレーションー災害避難所体験訓練ー

(1) 取り組みの経緯

地震などの災害が発生したときに、障害児・者だけでなく高齢者や乳幼児など保護が必要な人たちや、その家族・支援者を含めて、被災状況が深刻な状況となることは、想像に難くありません。なかでも、自閉症の人は、とっさに気持ちを交わすことが難しく、災害時にパニックになったり、十分な対応がなされないままの避難生活を余儀なくさせられたりすることが予想されます。本調査研究事業でも平成19年度に、神奈川県立高津養護学校PTAが、「地域との連携による学校づくり」として、地域防災ボランティア養成講座の実施について研究報告しています。先行研究をふまえて、私たちの学校でできることを考え、川崎市自閉症協会との共催による防災シミュレーション訓練を実施することとしました。

(2) 取り組みの実際

前述の高津養護学校の取り組みを参考に、以下のような訓練を実施しました。

神奈川県立麻生養護学校体育館を利用した 大規模震災時障害者に配慮した避難所設営訓練<簡略版>

1. 目的

大規模震災や水害など、災害時の障害者等要援護者支援は過去の大規模災害の例を待たず、大きな課題となっています。日常生活と乖離した場に押し込められる避難所生活は、障害者のみならず多くの要援護者にとって、緊張と忍従を強いられる場になりかねません。

この避難所設営訓練は、より実際に近い状態を設定することにより、参加者への体験の積み重ねと、支援者の支援方法のあり方の探求に具するものです。

2. 日時

平成22年1月24日(日)午前9時から12時

3. 場所

神奈川県立麻生養護学校体育館（川崎市麻生区王禅寺 303-1）

4. 参加者

障害のある方及びその家族、地域の方、学校関係者、ボランティア等

5. 訓練内容

- ①避難所設営訓練
- ②要援護者支援訓練
- ③避難所運営訓練
- ④炊き出し訓練

6. 被災想定

発災 20XX年1月XX日午前6時ころ

東京湾を震源とするマグニチュード8.0以上震度6強の地震が発生
沖積地や傾斜地・盛土地を中心に古い木造家屋倒壊多数、火災発生。
非耐震建物にも被害多数

24時間後

水道・電気・ガス使用不可

余震有り、非耐震建物には居住不可能

近隣住民は耐震化された公共施設に2次避難（1次避難は公園地・山林・林野等）

麻生養護学校では

午前8時 駆け付けた教員で対策本部立ち上げ

9時 避難してきた近隣住民・児童生徒保護者の収容を開始する
気温10度・晴れ

7. 訓練の流れ

午前8時30分 職員・ボランティア集合打ち合わせ

9時00分 参加者集合受付

15分 概要説明

9時30分 訓練開始

①避難所設営訓練（防災トイレ設営兼ねる）

②要援護者支援訓練

10時15分 ③避難所運営訓練

④炊き出し訓練

11時15分 全員参加で振り返り

各担当より訓練報告

質疑・応答

総括

12時00分 参加者解散

8. 係り分担と仕事内容

- 避難所本部（職員・ボラ等 ※本部長は互選）
- ボランティア対応（職員・防災ボラ ※ボランティア本部でボランティアコーディネイト）
- 受付（職員 ※本部と兼ねても可）
- 情報・広報（ボラ ※本部の指示に従い必要な情報を提示。本部と兼ねても可）
- 設営担当（職員・ボラ等 ※避難所区域の明示、必要物品確保・供給）
- 炊き出し（職員・ボラ）
- 要援護者対応（職員・ボラ）
- 避難所運営会議（※本部が召集、今後の方針確認等）

9. 必要物品

- 受付（長机1・受付用紙・カラーガムテープ3色各1本・ビブス20枚・筆記用具・教室配置等）
- 本部（長机2、椅子4、文房具、ポストイット、電話、会場図、ハンディスピーカー、ストップウォッチ等）
- ボランティア本部（長机2、椅子人数分、筆記用具、模造紙、太マジック、会場図、ポストイット等）
- 避難所設営グッズ（三角コーン、横バー、スズランテープ2、養生テープ、PSダンボール、ウレタンマット40、ブルーシート10、仮設トイレ2、ポリタンク2、バケツ2、ひしゃく2、毛布多数等）
- 要援護者支援グッズ（画板5・鉛筆10他筆記用具・模造紙20・ポストイット大20、車椅子1、担架1等）

- 炊き出し（長机1、防災用非常食料50人分、非常用保存水、紙コップ、雑巾20等）
- 避難所運営（長机2、椅子人数分、ホワイトボード、筆記用具、ポストイット等）
- その他（筆記用具、太マジック、模造紙、タッグシール大各色、ハンディスピーカー2、緊急用携帯電話又はハンディ無線機、ゴミ袋、ビブス5色10等、メガホン5、一輪車又は台車2、消毒用アルコールティッシュ2、防災マスク50、布ガムテープ20、滑り止め付軍手50、ホイッスル5等）

訓練当日は、本校PTAと川崎市自閉症協会から25名の参加がありました（うち障害者8名）。また、川崎・防災ボランティアネットワーク会議代表や神奈川県立高津養護学校の先生にもご参加いただき、アドバイスを受けながらの訓練となりました。

川崎市自閉症協会会長の明石洋子氏からは、日本自閉症協会発行の『自閉症の人たちのための防災ハンドブック』のご紹介があり、訓練をもとに、今後地域でのネットワーク強化と必要な準備（プラスチック段ボールによるパーティション、保存食を食べられない子どもたちの食事、ひとりひとりのお気に入りグッズ等）をしっかりとしていくことが大切というお話がありました。

参加者からは、「実際にパーティションを使って居住スペースが確保できると子どもが落ち着く」「防災備蓄食を食べられない子どももいるので備えが必要」「実際の避難所は過酷な状況であることが予想されるので、子どもがいられるかどうか不安」「もっと多くの人に体験してもらいたい」等の感想が寄せられました。



7. まとめと今後の課題

本研究では、PTAとして保護者ができることをやってみて、そこから得られるものを地域に還元していくという取り組みを試行した。地域のネットワークの絆を強め、協働していくことで、より広がりのある効果が期待できる。障害について地域の人に知ってもらうためのリーフレット作りや子どもたちの音楽活動やアートによる理解啓発や、行政や地域町内会・住民を巻き込んだ防災訓練の実施、キャラバン隊活動の定着など、今回はできなかったが、実施できそうな課題はたくさんある。

これからも、地域とのつながりを大切に、子どもたちのためにPTAとしてできることを少しずつでも取り組んでいく姿勢を忘れずにいたい。

（参考文献）

- ① 『障害のある子って、どんな気持ち？ 見て、聞いて、体験して、知ろう！』 座間キャラバン隊／著・ぶどう社・2009年7月発行
- ② 『「障がいのある子を守る」防災&防犯プロジェクト もしものときウチの子ってどうなっちゃうの?!』 中井孝吉／編著・ジアース教育新社・2007年7月発行
- ③ 『自閉症の人たちのための防災ハンドブックー支援をする方へー』
『自閉症の人たちのための防災ハンドブックー自閉症のあなたと家族の方へー』 社団法人日本自閉症協会・2008年12月発行
- ④ 『知的障害のある人を理解するために』
『知的障害のある人を被害からまもるために』 K-Pro・2001年発行
- ⑤ 『本当にあった話だよ』（現代GP障害理解絵本） 白梅学園大学・2008年7月発行
- ⑥ DVD「知的障害や自閉症等のある人たちをトラブルから守る」 NHK 厚生文化事業団
- ⑦ DVD「みんながって みんないい」 座間キャラバン隊